

事項一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件

二八三 一月二十八日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ

内田外務大臣宛

カナダ在留敵国人ノ追放問題ト其目的ニ関スル件

公第一六号

(三月三日接受)

大正八年一月二十八日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

去ル二十五日「オタワ」発新聞電報ニ拠レハ目下加奈陀各地ニ収容セル敵国人ノ総數ハ二千二百二十二名ニシテ内千七百名ハ独逸人五百二十二名ハ墺国其他ノ敵国人ナルカ領政府ニ於テハ右ノ内最モ危険且ツ好マシカラサルモノヲ追放スル事ニ決定セリト云フ

該報ノ当地ニ達スルヤ市長ゲール氏ヲ初メ市会ニ於テハ領政府ノ措置ヲ以テ未タ手緩ト為シ昨日會議ノ結果全会一致ヲ以テ大略左ノ通り決議セリ

晚香坡市会及市民ノ確信スル処ニ拠レハ加奈陀ニ在ル總テノ敵国人ハ加奈陀ノ利害ニ顧ミ好マシカラザル又有害

ナルノミナラズ經濟的及社会的の見地ヨリシテ敵国人ニ對

シ加奈陀ノ門戸ヲ閉鎖スル事ハ加奈陀ノ利益ト確信スルカ故ニ加奈陀政府ニ對シ在留敵国人全部ノ放逐ヲ求メ尚ホ本州各市ニ移牒シテ之レカ賛同ヲ求メ敵国人ヨリスル危害ヲ未然ニ防止シ凱旋兵ノ復歸ニ故障ナカラシコトヲ玆ニ決議ス云々

休戦以來戰爭關係事業ハ停止セラレ失業者漸次増加ノ兆アルト共ニ出征士卒ハ追々歸還シ來ル現狀ナレハ前述決議ノ如キ要スルニ労働者及歸還兵ノ保護ヲ目的トスルニ外ナラス從テ今後東洋人問題ニ對スル輿論ノ大勢ヲ推知スル事モ敢テ難カラサルナリ

為參考此段及報告候 敬具

写送付先 在オタワ古谷總領事

二八四 一月三十一日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

英領コロンビア州議會開會及政府提出議案等

ニ関スル件

第三号

(二月一日接受)

当州議會ハ一月三十日開會会期ハ約二ヶ月ノ見込ナリ政府ヨリ提出セラルヘキ議案ハ歸還兵就職其他社会的産業的ノモノナルモ休戦以來戰時事業停止セラレ失業労働者漸次増加ト同時ニ出征兵ハ陸續歸還シ從テ民間及歸還兵側ニ於ケル敵国人放逐又ハ東洋人排斥ノ声ハ漸次高マリ州内各地ニ於ケル邦農ノ増加ニ對シテモ亦大ニ警戒ヲ加ヘ居リ加之當市ニ於テハ明土曜日白人労働者ニヨリ日本人及支那人(不明)襲撃スヘシトノ噂モ起リ居ル現狀ナレハ今期議會ハ決シテ樂觀ヲ許ササルヘシ

二八五 二月四日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ

内田外務大臣宛

東洋人排斥運動及敵国人放逐運動ニ関スル件

附屬書

一月三十一日附「ミッシン」日本人農會中島禎造ヨリ在晚香坡浮田領事宛書翰写

「ミッシン」ニ起リタル日本人土地所有權剝奪問題ニ関スル件

公第二六号

(三月十日接受)

大正八年二月四日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二八五

外務大臣子爵 内田 康哉殿

排外運動ニ関スル件

一、東洋人ノ土地所有ニ對スル反對運動

二、敵国人放逐運動

三、東洋人街襲撃ノ風説

一、東洋人ノ土地所有ニ對スル反對運動

客月廿六日付公第一五号中報告「日本人ハ日本領事ヨリ三分ノ低利ヲ以テ前貸金ヲ受ケ居レリ」云々ノ新聞報道ハ大本州白人農夫ノ神經ヲ刺戟シタルモノト見ヘ其後外字新聞紙上再ヒ本件ニ言及セルモノアリシカ故一月三十日發行「サン」紙ヲ通シ更ニ其虛報ナル事ヲ弁明シ置キタリ尚前信所報「ポートヘネ」方面ニ於ケル東洋人土地所有禁止運動ハ「ミッシン」地方ニモ及ヒ去ル一月卅一日付ヲ以テ在「ミッシン」日本人農會ヨリ別紙甲号写ノ通り報告シ來レリ

二、敵国人追放運動

本件ニ関シ晚香坡市會決議ノ件ハ去月廿八日付公第一六号報告ノ通りナルカ其後当地大戦古兵協會(Great War Veterans Association 略名 G・W・V・A)ハ雇主協會

(Employers Association) 等ト協議ノ後敵国人ヲ解雇セシムル事ニ決定シ「ヴィクトリア」、「ニュー、ウエストミンスター」等ノ諸都市ニ於テモ亦同様ノ態度ニ出テ居レリ右大戦古兵協会ハ軍人ヨリ成ル此種団体中基礎最モ堅ク又最モ穩健ナルモノニ属シ目下ノ方針トシテハ敵国人ヲ解雇セシメ帰還兵ヲ以テ其欠ヲ補ハシメントスルニアルモノノ如ク同会長「ホイタカー」大尉ハ本官ニ対シ同会員ノ関スル限り日本人ニ対シテ反対ノ行動ニ出ツル事ナキ旨言明セリ

新聞紙ノ伝フル処ニヨレハ目下本州在住敵国人総数ハ収容敵国人ヲ合シ八千五百名ニシテ内五千名内外ハ晚香坡及其附近ニ就職シ又其他ノ外国人ハ日本人及支那人ヲ除キ州内約九万式千ニシテ内伊太利人ヲ最多トシ希臘人瑞典人等之ニ次ク而シテ是等外国人ニ対スル一般ノ人氣ヲ見ルニ伊國ハ同盟國ノ一員タルモ在留伊人ノ多クハ本國政府ノ召集ニ応シ出征セサリシトテ氣受惡シク希臘人ニ対スル反感モ亦頗ル大ナルモノアリ

三、東洋人街襲撃ノ風説

前週中帰還兵又ハ労働者ノ或ルモノ当地日本人街及支那人

ニシテ輕氣球ハ綱ニヨリ支持セラレ居ルモ万一条ノ綱ニシテ切断サレンカ遂ニ取り返ヘシ付カサルニ到ラント述ヘタリ此時当地陸軍隊長ヨリ大戦古兵協会長ニ電話来リ希臘人ニ対スル形勢頗ル險惡ナリト仍テ退出後小官ハ万一ヲ慮リ在留者ノ重ナルモノヲ日本人会ニ召集シ決シテ輕操ノ拳ニ出スヘカラサル旨ヲ戒告スルト共ニ邦人帰還兵等ヲ以テ内々土、日両夜警戒ノ手配リヲナシ置キタリシカ日曜日夜一二劇場ニ於テ社会主義者ニヨル演説会等アリシモ一般警戒嚴重ナリシ為メカ東洋人ニ対シテハ勿論希臘人ニ対シテモ何等事ナク三日月曜日朝ニ至リ大戦古兵協会長ハ当館ヲ訪ネ危險ナル事局ヲ拾収シ得タリト語レリ

叙上ノ如ク現下ノ形勢ハ敵国人追放運動ヲ以テ最モ戟甚ナリトシ又伊太利人希臘人ニ対スル反感多キトナスモ是レ等排外運動ノ余沫ハ直チニ東洋人ニ及フハ逆睹スルニ難カラサル処ナリ

右及報告候 敬具

写 在オタワ古谷総領事

註 別紙乙号写真略

(附屬書)

街ヲ襲撃スヘシトノ風説行ハレタリ当地ニ於テハ約十年前白人労働者ニヨリ日本人街ニ暴行ヲ加ヘタル前例モアリ人心恟々タルモノアリ本官ハ該風説ヲ耳ニスルヤ直チニ市庁ニ至リ適当ノ警戒及保護方ヲ依頼シ尚ホ之ヲ書面ニ認メ市長ニ照会シ置キタル処市長ヨリハ別紙乙号写ノ如ク個人トシテ東洋人ニ対シ反感ヲ有スルモノナキニアラサルモ帰還兵等ニ於テ襲撃ノ計画ナキニ付安心サレ度旨ノ回答アリ然ルニ去ル一日土曜日朝ニ於テ一般形勢甚タ不穩ノ状アリ本官ハ雇主協会 (Employers Association) ノ請ニ応シ同朝同会ニ参集シ協会幹部、大戦古兵協会々々長、市長「ゲール」及支那領事ト共ニ鎮定策ニ関シ擬議スル所アリシカ大戦古兵協会ニ於テハ前述ノ如ク日本人ニ対シ惡感ヲ有セサル旨ヲ言明シ同会々員ニ於テハ決シテ暴行ノ拳ニ出スルカ如キ事ナキ旨ヲ述ヘタルモ同シク帰還兵ノ一部ニヨリ組織セララル大戦協友会 (Comrade of Great War) ハ奸惡ノ名アル S. Gohard ヲ會長トナシ居ルモノナレハ同会員ノ行動ハ大ニ警戒ヲ要ストナシ夫々手管スル事ニ決セルカ席上市長ノ談ニヨレハ最近「ボルシエビズム」其他社会主義者ニヨル秘密集会諸所ニ行ハレ又希臘人ニ対スル反感熾ナリ幸

甲号写

一月三十一日附「ミッシン」日本人農会中島禎造ヨリ在晚香

坡浮田領事宛書翰

「ミッシン」ニ起リタル日本人士地所有權剝奪問題ニ関スル

件

大正八年一月三十一日

「ミッシン」日本人農会

中 島 禎 造(印)

晚香坡

帝国領事 浮田 郷次殿

拝啓陳者本日大略ヲ御聞ニ達シ置キ候当「ミッシン」ニ起リシ日本人士地所有權剝奪問題ニ関シ今日迄取調ヘタル概略ヲ左ニ報告シ貴官ノ援助ヲ仰キ度存念ニ有之候

当地ノ有力農家ニシテ本問題ノ主腦者トシテ極力奔走シツツアル、「ビー、ナイト」氏ノ言明セル所ニヨレハ本問題ハ「ミッシン」ノ自發的動機ニアラス一週間前「メップルブレツジ、ミュニシパリテイ」ヨリ輸入セラレタルナリト冒頭ニ弁明致シ置キ実ハ先方ヨリ本件ニ関スル決議文ヲ送付シ来リ該決議文ニ各農家ノ賛成的署名ヲ採リ呉レル様依頼ナシ来リタル故当「ミッシン、ミュニシパリテイ」

ニ於テモ義理合上余儀ナク此ノ運動ニ着手ナシ居ルノト今一ツハ当「フレザバレイ」ニ農業者トシテ一万ノ帰還兵招致運動ニ自分カ当地ノ委員トシテ關係ナシ居ル義務的立場ニアル訳ニテ本問題ニ力ヲ貸シツツ有ル所以テアル、且ツ自分トシテモ又一般「ミツション」白人農業家トシテモ大体ニ於テ内心日本人ヲ歓迎シ居ルハ争ハレヌ真事ナリ然レハ諸君日本人ニ於テモ甚敷憂慮セラルル必要ナシ又自分トシテモ心密カニ本問題ノ中絶ヲ希望シ最終マテモ此ヲ貫徹致サネハ止マヌト云フ存念ノ有ルトシ又本件ノ成功ハ甚タ至難ノ事業ナリトシ其成功ヲ自ラ否認シテ懸リ居ル有様ニ候

右決議文ニ署名シ居ル農業者約五十名アリ目下機會アル毎ニ署名ヲ採リツツ有ル故今後相当ニ賛成者ヲ得ル見込アリ而シテ相当ノ時期ヲ見テ政府当路ニ請願スル都合ニナリ居ル旨小生等ノ質問ニ対シ別ニ隔意有ルナク委細ニ語り終レリ

又他ニ四、五ノ有力者及其ノ關係者ト思敷者ヲ訪問シ意見ヲ尋ネタル処何レモ同様ニ諸君ヨ別ニ心配ナス可キ程事件カ進ム共思ハレス一時的世上ノ噂ニ上リ居ル事ナル故待ツ

二八六 二月十日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

東洋人排斥問題ニ関シ在オタワ古谷總領事ニ

通報ノ件

公第二九号

(三月十日接受)

大正八年二月十日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

排斥問題ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ古谷總領事宛通知ノ次第有之候ニ付右写御参考迄ニ及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第八号(写)

大正八年二月十日

在晚香坡 浮田領事

在オクワ總領事 古谷 重綱殿

去三日晚香坡市會産業部委員ハ帰還兵善後策講究中話題ハ東洋人問題ニ転シ現状ノ儘放任スルニ於テハ東洋人ハ市内ニ集注シ帰還兵ノ就職口ヲ奪取スルニ至ルヘシトナセリ而シテ該委員等ニ於テ最モ憂慮セル所ノモノハ支那移民ノ襲

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二八六

可キハ時期ノ問題ナリ時期来リナハ自然ト立消エニナルハ必然ナリト各自意見ヲ快ヨク話シ呉レ居リ候又一白人ノ如キハ極力日本人ノ真価値ヲ賞賛シ実力ヲ認メ日本人ハ吾カ「ミツション」ノ開拓者ナリトシ又恩人ナリト激賞シ却テ此運動ニ反対シツツ有ル者モ有之候

要スルニ以上ノ調査ニテ推断スルニ本問題ノ根本ハ「メツブルブレツジ、ミュニシパリテイ」ニ存シ当地ハ単ニ枝葉ニ連続セラレ居ル者ノ如シ現今我同胞ノ農業ニ着目シテ非常ナル勢ヲ以テ増加シツツアル場合斯ル忌ハシキ問題ノ發生ヲ見ル実ニ吾カ同胞ノ将来憂慮ニ不堪希クハ貴官ノ御聖賢ニ依テ其ノ根本タル「メツブルブレツジ」方面ノ運動中止ニ御尽力ヲ相願度然レハ其ノ枝葉タル当地ノ運動モ自然立消エト相成ルヘキカ此点御賢察被下度及懇願候追テ今後ト雖モ吾等役員極力ヲ尽シテ白人側ノ動靜ヲ探リ而シテ事件有ル毎ニ貴官宛一報致可存念ニ有之候右不取敢一書ニテ御一報マテ如斯ニ候 敬具

二伸

当地発刊ノ新聞紙一葉差送候間御覽読被下度候

来及支那人ノ市内白人住居区域ニ蚕食スル事等ニアリシカ要スルニ斯ル問題ハ領議員其他關係各方面ノモノヲ招集シ市会ニ於テ凝議スルヲ可ナリトシ越エテ去七日臨時市会ニ於テ議員オーウェン氏ハ左ノ決議案ヲ提出セリ

目下就職ノ目途モナク外国移民ノ陸續加奈陀ニ入込ミ来リ又帰還兵士及其遺族等ニ対スル善後問題ハ最モ緊急ナルモノアル事情ニ顧ミ当市会ハ帰還兵復旧事業ノ満足ナル結了ヲ見ルマテ全然外国移民ノ加奈陀入国ヲ禁止スル様領政府ニ要求スヘキコトヲ決議ス

右ハ前回ノ行懸リニ見ルモ其ノ起因ハ支那人排斥ニアリタルモ討議ノ成行ニ徴スレハ一般東洋人排斥方ニ関シ強固ナル意志ヲ表白セリ当日支那領事葉氏モ請ニ応シテ出席シ支那移民ニ関シテハ日本ニ倣ヒ紳士協約様ノモノヲ訂結シ修学ノ仮名ノ下ニ来加スルモノヲ防止シ入国税ノ撤廃及或種支那人ノ送還方等ニ就キ陳述スル所アリタリ

前記決議案ハ表面一般外国人ノ入国ヲ禁止セントスルニアリテ目下合衆國議會ニ提案セラレ居ル「外國移民ノ向フ四ヶ年間入米禁止法案」様ノモノノ立法ヲ望ミタルモノナルヘク又該問題ノ起源カ支那人問題ニ在リシヲ以テ本官ハ単

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二八七

ニ傍觀の態度ニ出テタリシカ支那領事ノ所謂打解ケタル意見ノ提出モアリテ市長ハ一先ツ原案ノ撤回ヲ求メ別ニ東洋人問題研究ノ特別委員ヲ挙げ他ノ諸団体委員及支那領事ト共ニ東洋人問題ヲ研究スヘキ事ヲ慫慂セシモ採決ノ結果僅ニ一票ノ差ヲ以テ原案通り可決セリ（仍テ其旨本朝第三号ノ通り電報セリ）

元來原案提出者ニ於テモ其真ノ目的ハ東洋人排斥ニ存スルハ明瞭ナル所ナルカ故支那領事ノ挙ハ藪ヲツツキテ蛇ヲ求ムルノ感ナキニアラズ其原案通過ハ却テ都合ト信シタリシカ原案通りノ主張ハ各条約其他ノ關係上到底領政府ニ於テ実行シ能ハサル事ハ出席議員初メ市長等ノ殆ント疑ハサル所ナレハ前記決議ニ拘ハラズ市長「ゲール」ハ本日当市ニ於ケル東洋人問題解決ノ為メ諸実業団体代表者及支那及日本領事ヲ交フル協議会ヲ開催スヘク特別委員任命ノ儀ヲ市会ニ提出シ其賛同ヲ得テ市會議員「エルキンス」、「マクレレー」、「カーク」及「シエリー」ノ四氏ヲ指名セリト云フ

為御参考右及御通知候
写送付先 外務大臣

敬具

局官憲ニ移牒スルコトナレリ

為御参考此段及報告候

敬具

写在オタワ古谷總領事

二八八 二月十二日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

サン紙日本号附録発行ノ件

機密公第二号

（三月十日接受）

大正八年二月十二日

在晚香坡

領事 浮田 郷次（印）

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シテハ客年五月一日付機密公第四号ヲ以テ上申同六月十二日付通機密送第一号ヲ以テ五百弗ノ高特ニ機密費ヨリ御支給相成而シテ該日本号広告主ハ信用確実ニシテ外国取引ノ資力ト能力トヲ具備シ真ニ日加貿易ノ媒介者タリ得ヘキモノニ限り又論説記事ノ如キモ朝野知名ノ士ヨリ寄稿ヲ求メ度希望ニ有之候処幸本邦有力ナル会社商店ニ於テ広告方ヲ快諾シ予定以上ノ金額ニ達セルト共ニ

在紐育 家永豊吉

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二八八

二九八

二八七 二月十二日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

敵国人追放及敵国移民來住禁止ニ関シ英領コ

ロンビア州議會決議ノ件

公信第三五号

（三月十日接受）

大正八年二月十二日

在晚香坡領事 浮田 郷次（印）

外務大臣子爵 内田 康哉殿

敵国人ノ追放問題ハ今ヤ当州一般ノ輿論ニシテ帰還兵諸団体ハ勿論、農工商各階級ニ至ルマテ極力主張シツアル所ナルカ北晚香坡選出州議員ジ、エッチ、ヘーンス氏ハ去ル十日B、C州内ニ於ケル総テノ敵国人追放並ニ敵国移民ノ來往禁止方ニ関スル決議案ヲ州議會ニ提出シタルニ州工務長官スロイン氏ハ該動議ニ賛成シ尚ホ本案ニ附加スルニ「一切ノ移民問題ハ本州ニ甚大ナル利害關係ヲ有シ平和會議ニ於テハ疑モナク之ヲ考量スヘキカ故ニ加奈陀ハ當領ヘノ移民ニ対シ飽クマテ管理權ヲ施行シ得ル様主張方ヲ平和會議ニ於ケル加奈陀代表者ニ希望ス」ヘキ旨ノ修正説ヲ出シタルニ討議ノ結果該修正案通り可決シ右決議文ノ写ヲ當

在桑港 河上 清

在オタワ 古谷總領事

在東京 郵船会社 伊東米次郎

同 三菱会社 男爵岩崎小弥太

同 法学博士 浮田 和民

ノ諸氏ヨリ通商航海及日加親善ニ関スル有益ナル論文ノ寄稿有之候ニ付去八月十四日付公第一七七号報告予定ノ通り（但シ都合ニヨリ一日遅延）紀元節佳辰ヲトシ別冊ノ通り本日發行候間御高覧相成度最モ右不備ノ点不尠甚々意ニ滿タサルモノ有之候得共先般來隨時報告セル如ク休戦以來戰時事業停止ノ為メ失業労働者ハ日々増加ノ一方出征兵士ハ続々帰還シ之レカ善後策ハ朝野ノ最モ苦心スル所ニシテ同時ニ排東洋人問題モ持チ上リ居リ他面通商ニ関シテハ此際大ニ東洋諸國ト密接ナル關係ヲ結ハンコトヲ熱望シ居レル折柄ナレハ政治上ヨリ又通商上ヨリ觀ルモ本日日本号ノ發行ハ最モ機宜ヲ得タル次第ト存候別封日本号五部相添ヘ此段申進候 敬具

追テ前述機密金五百弗ハ鐵道院広告名義ヲ以テ交付スル事ニ可取計候間右ニ御含ミ相成度

二九九

尚本誌ハ日加ニ於ケル重要商業會議所及当州内閣員及議員等ニ配布方取計置候

写送付先 在オタワ古谷総領事

二八九 二月十七日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

住宅建築法案中ノ家屋建築ニ東洋人使役禁止
条項追加ノ修正案ニ関シ請訓ノ件

第四号 (二月二十一日接受)

州政府ハ曩ニ Better Housing Act ノ議案ヲ州議會ニ提出セリ其目的ハ領政府ヨリ資金ヲ借入レ一般住民特ニ帰還兵ニ適當ナル住宅ヲ供セントスルニアルモノナルガ社会主義議員「ホーソンスウェイト」ハ一昨土曜日該議案中ニ本法ニ基ク家屋建築ニハ東洋人ヲ使役スヘカラストノ一項ヲ追加スヘキ修正案ヲ提出セリト云フ就テハ該修正本文入手次第本邦人ニ対シ差別的待遇ヲナスノ不当ヲ首相ニ申込ムヘキ考ナルモ目下帰還兵就職問題甚タ喧シキ折柄事情万已ムヲ得サル得サル場合ニハ明治四十三年一月機密第二号ノ前例ニ倣ヒ東洋人使用禁止ノ件ハ単ニ政府ト請負人トノ内契約ニ止メ法案中ヨリハ削除セシムルコトニ交渉シ然ルヘキ

ヤ
在オタワ総領事ヘ転電セリ

二九〇 二月十八日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

住宅建築法案中ニ東洋人排斥条項挿入方ノ修正
案提出サレタルニ付請訓ノ件

機密公第四号 (三月十二日接受)

大正八年二月十八日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)
外務大臣子爵 内田 康哉殿

過般來諸種ノ外国人排斥論当州各地ニ於テ熾ニ唱道サレツツアルモ今日迄未タ何等排斥の法案トシテ州議會ニ提出サレタルモノナカリシガ昨日接到ヴィクトリア市發刊タイムス紙ニ依レハ彼ノ社会主義議員「ジェー、エッチ、ホーソーンスウェイト」ハ去ル十五日(土曜日)予テ政府ヨリ提出シアル「Better Housing Act」法案中ニ「該法ニ基ク建築事業ニハ東洋人ヲ使用スルコトヲ禁スル旨ノ追加修正案ヲ提出セリト云フ
右建築法案ハ昨年十一月下旬「オタワ」ニ於テ開催セラレ

タル各州首相會議決定ノ方針ニ基クモノニテ州政府ハ中央政府ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ(一九一八年十二月三日附加奈陀總督命令二九九七号ニヨリ)一般住民特ニ帰還兵ニ対シ適當ナル住宅ヲ供給セントスルモノナリ

就テハ前記修正案ノ内容ヲ確メタル後時機ヲ逸セス首相宛抗議スヘキ考ヲ以テ昨十七日拙電四号ノ通り報告併セテ事情万止ムヲ得サル場合ニ於テハ去ル明治四十三年一月機密第二号州政府及「カネディアン、ノーザン」鐵道会社間ノ

鐵道契約法ノ前例ニ倣ヒ東洋人使用禁止ノ件ハ単ニ政府ト受負人トノ内契約ニ止メ法案中ヨリハ削除セシムル事ニ交渉シ可然ヤ心得迄ニ請訓シタル次第ナリ蓋シ現首相「ジョン、オリバー」氏ハ昨年四月八日附機密公第一一号報告ノ

如ク本官宛書面ヲ以テ日英條約ノ拘束力ヲ認メ且是ニ適從スヘキ義務ヲ承認セルノミナラズ其後客年八月軍艦霧島來航ノ際交歓宴席上首相ハ更ニ條約ノ尊重スヘキ事ヲ声明シタル事アリ小官ハ首相ノ誠意ニ信賴シ該修正案ハ必ス否決セラルヘク思考スルモ又一面ヨリ現下ノ政局ヲ觀察スルニ現自由黨議員間ノ結束甚タ堅カラスシテ従来同黨ニ属シタルシ軍人議員ハ其後新選セラレタル軍人出ノ議員二、三名

ト共ニ軍人黨ヲ形成シ主ナル反對黨タル保守党ト共ニ政府ニ肉迫シ他面帰還兵士ノ鼻息甚タ荒ク一般政治家ハ専ラ渠等ノ歎心ヲ得ルニ汲々タル有様ナルカ故本案ノ如キモ或ハ多数ヲ以テ議會ヲ通過スルナキヲ保シ難キ事情アリ其場合ニ於テ保守黨政府時代ニ於テ為セル前例ヲ襲踏シ法案本文中ヨリ排斥洋人の条項ヲ削除セシムル事ハ交渉上甚タ好都合ナルモノアリ

州政府發刊議事摘録ハ未タ接受セス此間本件議事ノ進行憂慮サルルモノアルヲ以テ本朝不取敢首相宛電報シ更ニ別紙甲号写ノ通該修正ハ日加ノ善誼ヲ傷ヒ且ツ帰還日本兵モ為メニ除外セラルル事トナリ甚タ不当ノ立法タルヘキ事ヲ指摘シ尚ホ乙号ヲ以テ實際日本人ニシテ建築事業ニ從事スヘキモノ殆ント皆無ナルヘク又万一該修正案ニシテ可決セラレンカ本官ハ條約ヲ楯トシ之レカ不許可ヲ上級官憲ニ要求スルノ一途アルノミニシテ為メニ該法全部不許可ノ運命ヲ見ルニモ至ラバ甚タ遺憾ナリトノ意ヲ表シ首相ノ注意ヲ喚起シ置キタリ右不取敢及報告候 敬具

写 在オタワ古谷總領事

註 別紙甲号及乙号省略

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二九一 二九二

三〇一

二九一 二月二十日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

住宅建築法案中ニ東洋人排斥条項挿入ヲ防止
スル様努力スベキ旨首相ヨリ回答越ノ件

第五号

(二月二十二日接受)

In reference to my telegram 4, Premier, in reply
to my protest, informs me to the effect that he fully
concurs with my remarks and personally will endeavour
to prevent insertion of the amendment in the bill.

Ottawa 電セリ

Ukita.

二九二 二月二十日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

住宅建築法案中ニ東洋人排斥条項挿入方ノ修

正案提出ニ付統報ノ件

機密公第七号

(三月十三日接受)

大正八年二月二十日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シ首相ノ注意ヲ喚起シ置キタル次第ハ一昨十八日

I fully concur in your remarks and personally will
endeavour to prevent the insertion of the amendment
in the Bill.

Yours truly,

(signed) John Oliver

二九三 二月二十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

カナダ渡航日本移民数ニ関スル領議員ノ発言

訂正ヲ求メタル旨オタワ総領事ニ通報ノ件

公第四六号

(二月十三日接受)

大正八年二月二十五日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

排外問題ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ総領事ニ通報ノ次第有
之候ニ付御参考迄ニ右写茲ニ及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第一六号写

大正八年二月二十五日

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二九三

付機密公第四号ヲ以テ及報告置候処右ニ対シ本日別紙写ノ
通り回答有之(本朝第五号ノ通り電報)即チ首相ニ於テハ
全然小官ノ意見ニ同意シ排斥条項挿入方防止ニ努力スベキ
旨申シ来リ候就テハ首相ノ誠意ニ信頼シ当分形勢觀望ニ止
メ置キ度考ヘニ有之候右及報告候 敬具

写送付先 在オタワ古谷総領事

(別紙)

二月二十日附B.C.州政府首相オリヴァー氏ヨリ浮田領事宛
書翰写

PRIME MINISTER

Province of British Columbia

Victoria, February 20th, 1919.

Hon. S. Ukita,

Consul of Japan,

Vancouver, B. C.

Sir:—

I am in receipt of your letter of the 18th, inst.,
with reference to amendment to the Housing Bill submit-
ted to the Legislature by Mr. Hawthornthwaite, the
Honourable Member for Newcastle.

在晚香坡領事 浮田 郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

排外問題ニ関スル件

当市選出領議員「エス、ジエー、クロー」氏カ過日当市会協
議會席上日本ハ紳士協定ヲ遵守セス現ニ一九一七年日本ヨ
リノ入国移民ハ四百名ノ代リニ六百四十八名ナリト陳ヘタ
ルニ対シ同氏宛正誤シ置キタル次第ハ去ル十二月付阿往第
一〇号ヲ以テ及御通知置候処本日在「オタワ」「クロウ」氏
ヨリ別紙写ノ通り回答有之候間右ニ御承知相成当館発給家
内使用人及定着農夫呼寄ニ対スル証明ハ去ル一九一七及一
九一八兩年ニ於テハ一般労働欠乏ノ実況ニ鑑ミ有資格者ニ
対シテハ毎月約三十件ヲ超エサル数ヲ程度トシ来リ從テ一
ヶ年ノ総數ハ三百余件ニ達シ居レルモ其前ニ於テハ労働市
場不振ノ為メ発給數ハ年百件内外ニ有之小官ヨリ「クロウ」
氏宛既往四ヶ年間毎年平均呼寄數ヲ二百五十一件ト為セシ
ハ右ノ理由ニ基クモノニ有之而テ同氏カ一九一七年新入国
者ヲ六百四十八名トセルハ妻子呼寄等ヲ加算セルモノト思
考候得共帝國政府トシテハ嘗テ「ルミュー」協約ニ違反セ
ル事實ナキハ明カナル次第ニ有之候間別紙写相添ヘ御含マ

三〇三

テ此段申進候也

写送付先 外務大臣

註 別紙省略

二九四 二月二十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

敵国人追放及外国移民入国禁止ニ関シ在オタ

ワ総領事ニ通報ノ件

公第四七号

(二月十三日接受)

大正八年二月二十五日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

排外問題ニ関スル件

本件ニ関シ今般在オタワ古谷総領事ニ宛別紙ノ通り通報ノ
次第有之候ニ付御参考迄右写及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第一七号写

大正八年二月二十五日

在晚香坡領事 浮田 郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

住宅建築法案中ノ東洋人使役禁止条項追加修

正案ニ関シ回訓ノ件

第三号

貴電第四号ニ関シ目下本邦ニ於テハ人種的差別待遇ノ撤廃
ヲ主張スル輿論高潮ニ達シ居ルニ付此際御来示ノ如キ修正
案ノ通過スルコトハ両国々交ニ甚タ面白カラサル影響ヲ及
ホス虞アルヲ述ヘ首相ヲシテ飽迄貴電第五号ノ所言ヲ実行
セシムル様セラレタキモ万已ムヲ得サル場合ハ貴案ノ通り
明治四十三年一月機密第二号ノ前例ニ倣ヒテ交渉セラルル
モ差支ナシ

二九六 二月二十八日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本移民入国数ニ関シ加奈陀首相ヘ通報ノ件

附屬書 二月二十八日附浮田領事ヨリ加奈陀首相宛書翰

写

機密公第八号

(四月一日接受)

大正八年二月二十八日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二九六

排外問題ニ関スル件

当市会カ在留敵国人追放及外国移民ノ入国禁止ヲ領政府ニ
要求スルノ決議ヲ為セル次第ハ去ル一月二十八日付大臣宛
公第一六号及去ル二月十日付阿往第八号前段ヲ以テ及御通
知候処当地商工諸団体代表者等數十名ハ昨日市庁ニ参集シ
諸他排外問題ニ就キ協議スル処有之結局前述市会ノ決議ニ
対シ満場賛助ノ意ヲ表シ各代表員ヨリ成ル特別委員ヲ挙ケ
オタワ政府宛建議書ノ起草ヲ依託スル事ト相成候

右市会ノ決議ニ関シ新聞報道ニ拠レハ貴地國務大臣マーテ
イン、バレル氏ハ当市選出議員クロウ氏ト本件ニ関シ熟議
スヘキ旨申シ来リ又当州選出議員エッチ、エス、クレメン
ツ氏ヨリモ援助スヘキ旨ノ挨拶来リ居レリトノ事ナレハ其
内何等カノ発展ヲ見ルヘキ儀ト存候尚前公信末段ヲ以テ及
御通知置候東洋人問題ニ関シテハ本午後市庁ニ於テ諸団体
集合協議スル事ニ相成居候
為御参考此段及御通知候也
写送付先 外務大臣

二九五 二月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在ヴァンクーヴァー浮田領事宛(電
報)

昨夕発行「プロビンス」紙掲載ヴェクトリア来電ニ拠レハ
「ニューカッスル」選出議員「ホーソーンズウエート」氏
ハ州議會ニ於テ既往四ヶ年間ニ於ケル東洋移民ノ本州上陸
数ニ就キ質問書ヲ提出セル由ニ有之候処本件ハ最近世人ノ
注意ヲ惹ケル問題ニモ有之此際帝國政府ノ誠意ヲ明カニシ
同時ニ誤解ヲ防キ置クノ利アルヲ認メ本日別紙写ノ通り首
相ジオン、オリヴァー氏宛発信致置候間右ニ御了承相成度
此段申進候 敬具

写 在オタワ古谷総領事

(附屬書)

二月二十八日附浮田領事ヨリカナダ首相宛書翰写

Private of Confidential

February 28th. 1919.

Hon. John Oliver,
Victoria, B. C.

Dear Sir:—

Apparently general public in British Columbia are
under misapprehension that the Lemieux arrangements
entered into between Japan and Canada in 1907 have not

been observed. Mr. S. J. Crowe, M. P. stated in the Vancouver City Council about three weeks ago that the gentlemen's agreement had not been lived up to, and the "World" in its issue of last Wednesday, quoting an official return obtained from Ottawa, asserted that agreement to limit Japanese immigration has not been observed.

Believing that your Government was fully informed of the nature of the arrangement, I may mention that the immigrants who have previously resided in Canada and their wives and children as well as bona fide merchants, tourists and students are not included in the numerical restriction. Limitation is placed in the case of domestic servants and agricultural settlers, who are only classes of working people permitted to emigrate to Canada, and I assure you that the annual entry of Japanese in Canada have never exceeded the quota as fixed by the arrangement.

As a matter of fact, I beg to inform you that the

certificates issued by this Consulate, on the strength of which alone my Government issues passports, have been only 251 per annum in average for the last four years. In issuing such certificate I am exercising utmost care taking into consideration the prevailing labour condition. Naturally the number of the certificates issued during the last two years have been greater than that of the previous years owing to the shortage of labour, yet the total number of certificate issued was far less than 400 each year. The list of the names to whom the certificates are issued, are regularly informed to the Dominion Immigration officers both at Vancouver and Victoria, and there can be no room to suspect the sincerity of my Government. I think, therefore, that the official return above referred to, include Japanese other than above mentioned working people.

I write you this for your personal information in appreciation of your frank and upright dealings, having noticed in yesterday's "Province" that Mr. Hawthorn-

thwaite filed questions with regard to the number of Chinese, Hindu and Japanese immigrants into British Columbia in the last four years.

Believe me,

Dear Sir,

Yours very truly.

二九七 二月二十八日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本移民入国数ニ関シオタワ総領事ニ通報ノ件

公信第五〇号

(四月一日接受)

大正八年二月二十八日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

日本移民入国数ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ古谷総領事ニ通報ノ次第有之候ニ付御参考迄右写致ニ及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第一九号写

大正八年二月二十八日

一〇 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二九七 二九八

在晚香坡領事 浮田郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

本件ニ関シ領議員「エス、ジュー、クロウ」氏ト往復セル次第ハ去ル十二日付阿往第一〇号並ニ同二十五日付阿往第一六号ヲ以テ夫々及御通知置候処一昨二十六日当地発行夕刊新聞「ウォールド」ハ別紙甲号切抜ノ通り「オタワ」ヨリ得タル日支移民入国表ヲ掲ケ日本移民制限ハ實際ニ於テ勵行サレ居ラサル旨附記致シ居リ候間世人ノ誤解ヲ招カントラ慮リ別紙乙号切抜ノ通り「ウォールド」紙ニ送り尚ホ其写ヲ「クロウ」氏ヘモ發送致シ置キ候間為念此段及御通知候也 写送付先 大臣

註 別紙省略

二九八 三月二日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英領コロンビア州議會ニ提出案中ノ最低賃銀

ニ関スル件

第六号

(三月四日接受)

本期州議會提案諸案中ニ付テ見ルニ往々 Fair or minimum wages clause ノ規定アリ元ヨリ現在ノ社会事情ヲ考量シ

三〇七

労働者保護ヲ主眼トスルモノナルモ数日前政府案トシテ提出サレタル炭坑規則修正案中ニモ同様賃金ニ関スル条項アリ即チ白人労働者ヲ標準トセル最低賃金ヲ定ムルニ於テハ坑主側ニ於テハ此職工賃金ヲ以テ東洋人ヲ使役スルモノナカルベク又白人労働者モ喜ンデ就働スベキガ故ニ自然東洋人ハ驅逐セラル、ノ結果トナルベシ該修正案ハ当局者ニ於テ東洋人排斥ヲモ加味シテ巧妙ニ立案セルモノト疑ハレザルニ非ズ尤モ本件ニ就テハ坑主側ニ於テ反對運動中ナレバ原案ノ儘通過スルヤ否ヤハ今日逆睹シ難キモ其通過セル暁ニ於テハ「カンパラランド」炭坑就働邦人労働者等ハ何等カノ影響ヲ蒙ルニ至ランカ（不明）年公信第二〇号報告書第二項参照）差当リ本官ニ於テハ別ニ抗議ノ余地ナキモノト思考ス
オタワへ転電セリ

二九九 三月四日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

英領コロンビア州議會ニ於ケル外国人入国拒絶決議案通過ニ付在オタワ領事ニ報告シタル件

出ノ理由トシテ「マンソン」氏ノ説明セル処ニ拠レハ右ハ単ニ敵国人ヲ指スモノニアラス Mennonites 其他一般ニ好マシカラサル移民ノ排除ヲ意味スト論シ例ノ「ホーソーンスウエー」氏カ東洋人ニ対シテハ如何トノ質問ニ対シ之レヲ含ムノ意ヲ答ヘ「シー、エフ、ネルソン」氏ハ更ニ極端論ヲ發シ外国人ヲ追放スヘク決議スヘシ等ノ論ヲ為セシカ本件ハ昨三日討論ヲ続行シ全院一致ヲ以テ通過セリ該決議文中ニケ所ニ現ハレ居ル immigrants who are "not prepared to accept the full responsibilities of citizenship" ナル字義ニ対シ之レヲ日本人就中帰化日本人ニ適用シ解釈ヲ下サンカ彼レ等ハ何レモ市民タル全責任ヲ「アクセプト」スヘク「プレペアー」シ居ルモノニシテ加奈陀徴兵令施行當時在留帰化青年等カ帰化日本人団ナルモノヲ組織シ徴兵免除ノ請願ヲ為シタル行為ノ如キモ市民タルノ責任ヲ「アクセプト」セサリシニハアラス要スルニ參政權ナキカ故ニ外ナラサリシナリ御参考且御含ミ迄此段及御通知候也
写 大臣

公第六〇号 (三月二十一日接受)
大正八年三月四日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

外国人入国拒絶決議案通過ノ件

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ古谷総領事ニ報告ノ次第有之候ニ付御参考迄ニ右写致ニ及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第二一号写

大正八年三月四日

在晚香坡領事 浮田郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

外国人入国拒絶決議案通過ノ件

客月二十七日州議員マンソン氏ハ一ノ決議案ヲ州議會ニ提出セリ其内容ハ「近來市民トシテノ責任ヲ完全ニ履行セサル移民ノ本州内ニ流入スルモノ多数ナル処州議會ノ意見トシテハ斯ル種類ノ移民ハ加奈陀入国ヲ拒絶スルヲ適當ト認ムルカ故市民タルノ全責任ヲ負担スルヲ敢テセサルモノヲ拒絶スヘキ様領政府ニ勧告ス」ト云フニアリテ該決議案提

三〇〇 三月四日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

B、C、州議會ニ於ケル外国人入国拒絶決議ニ

關連シ外国移民ノカナダ化教育論等報告ノ件

公信第六二号 (三月三十一日接受)

大正八年三月四日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

在加外国移民ノ加奈陀化論

自由黨選出州議員マンソン氏ノ動議ニ係ル外国人入国拒絶ニ関スル決議案ハ昨三日全会一致ヲ以テ州議會ヲ通過セル次第ハ本日付在オタワ古谷総領事宛別信阿往第二一号報告ノ通りナルカ該案討議ノ際保守黨議員「ジョーンス」ハ当州ニ於テ市民タルノ思想ヲ鼓吹スルノ必要ヲ述ヘ且ツ曰ク当州全人口四十万中十三万人ハ外国移民ニシテ内約四万人ハ東洋人、二万六千人ハ敵国人ナリト云ヒ又「ベル」氏ハ平原州ニ於ケル更ニ驚クヘキ数字ヲ示シ「サスカチエワン」州人口總數六十五万人中三十万人ハ英語ヲ解セス又其中十一万人ハ敵国人ナリト述ヘ「アルバータ」及「マニトバ」両州モ亦大同小異ナリト告ケタリ

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥関係一件 三〇一

「ジョーンス」氏曰ク加奈陀ニ於テハ移民問題程重大ナルモノハアラス当州ノ開発ニハ人口増加ヲ要件トシ州ノ将来ハ事実上新来者ニ依頼セサル可カラス而モ移民ハ国法ニ遵ヒ純良ナル市民タル資格ヲ具備スルモノタラサルヘカラス本問題ハ從來ヨリモ一層重要ノ意義ヲ増セリ教育ニ就テモ亦大ニ留意スヘキ処ニシテ移民児童ハ総テ学校ニ通学セシメ外国語ノ学校ヲ廃シ市民化ニ努力スルト同時ニ今後完全ニ市民タル要件ニ服スル能ハサルモノハ排斥スヘシト論セリ

当州ニ於ケル対移民策ハ從來種々ノ曲折アリシ処ナルモ小官着任後ノ実況ニ就テ之レヲ見ルニ現州議會ニ於ケル唯一ノ婦人議員タル「ラノフ、スミス」夫人ハ去ル大正六年六月中前同様ノ議論ヲ当地ロータリー倶楽部ニ於テ述ヘタル事アリ(大正六年七月十日公第一七七号B、C州在留日本児童教育状況第一章第六節)其後合衆国力大戦ニ参加スルヤ敵国人ニ対シテハ勿論一般外国移民ニ対スル米化要求日々月々加ハリ其影響ハ更ニ加奈陀ニモ波及シ曩ニ「マニトバ」州ニ於テハ外国語授業撤廃ノ事アリ当州ニ於テハ實際上移民教育トシテノ学校問題未タ発生シ居ラサルモ議會ニ於ケ

非常ノ数ニ上リ(最近一ケ年六百六十五名)從ツテ日本移民総数ノ多大ナル増加ヲ来シ日本新移民(再渡航ヲ除ク)ノ入国数ハ大体四百名ニ限ラレ居レリト考ヘ居ル当国人殊ニ「ビー、シー」州人ノ注意ヲ喚起シ現ニ「ビー、シー」州議員ニシテ日本ハ「ルミユウ」協商ヲ忠実ニ実行シ居ラズト公言スルモノアリ日本移民数ノ増加ハ目下開会中ノ議會ノ問題タラザルヲ保セズ又本官近々移民大臣ト会見ノ機会アル様思考セラルル処増加数ニ於テ問題トナリ得ルハ前記妻子呼寄せノミナルニ依リ必要ノ場合本件説明方ニ関シ至急何分ノ儀御回電ヲ請フ

註 ルミュー協商ニ関シテハ日本外交文書第四十卷第三冊一七九九文書参看

三〇二 三月十三日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

住宅建築法案中ニ東洋人排斥条項挿入案撤回

ノ件

第九号

(三月十五日接受)

往電第五号ニ関シ拾三日住宅法案討議ニ当リ首相ハ本官抗議ノ趣旨ヲ議場ニ説示シ為メニ提案者ニ於テ東洋人排斥ノ

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥関係一件 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四

三二〇

ル上述意見ノ開陳ハ之レカ前衛トモ称シ得ヘク各地ニ於ケル日本人設立諸学校ノ如キモ自然改造ヲ余儀ナクセラルルノ時期ニ到達スルナランカ
為御参考此段報告申進候 敬具
写 在オタワ古谷総領事

三〇一 三月十三日

在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルミュー協商ニ於ケル再渡航移民ノ携帯スル
妻子ノ中ニハ妻子呼寄ヲ含マザルヤニ付請訓
ノ件

第一七号

(三月十四日接受)

「ルミユウ」協商ハ明治四十年十二月廿八日附機密送第四号ノ通り確定セラレタルモノナリヤ在英大使宛同年機密第廿五号別紙第三号第一項 Emigrants previously resided in Canada 云々ノ項中ノ Wives and Children of such Emigrants ハ移民再渡航ノ際携帯スル妻子ヲ意味スルモノニシテ妻子ノ呼寄せ即 Wives and Children of Emigrants actually residing in Canada ハ此ノ中ニハ含マレザルモノト解セラレザルニ非ズト思考ス然ルニ此妻子呼寄せ近來

修正条項ヲ撤回スル事トナレリ

三〇三 三月十五日

在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

B、C、州議員領議會ニ於テ日本移民問題ニ
言及シタルニ付移民大臣ニ説明シタル件

第一九号

往電第一七号ニ関シ

十三日議會ニ於テ「ビー、シー」州議員日本移民問題ニ言及スル所アリ十四日俱樂部ニ於テ昼食後移民大臣ヨリ右ニ関シ談及セラレタルニ付大要説明シ置キタル処自分ハ「ルミュー」協約ニ付テハ未タ研究シ居ラサルモ二、三日中ニ当局者ト共ニ(不明)シ精細ニ研究シ度シト云ハレタルニ付本官ハ之ヲ快諾スルト共ニ帝國政府ハ最モ忠実ニ「ルミュー」協約ニ準拠シ居ル旨言明シタルニ同大臣モ右ニ付テハ自分ニ於テモ聊カモ疑念ヲ有セザル処ナリト述ヘラレタリ可成速ニ往電第一七号ニ対シ御回調ヲ請フ (十五日)

三〇四 三月十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

住宅建築法案中ニ東洋人排斥条項挿入方ノ修

正案撤回ノ件

機密公第一号

(四月八日接受)

大正八年三月十五日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次(印)

外務大臣子爵内田 康哉殿

本件ニ就テハ客月二十八日付貴電第三号御来示ノ次第有之候処同月二十日付機密公第七号報告ノ通り首相ヨリノ返信モ有之爾来形勢觀望罷在候折柄同案ハ一昨十三日議題ニ上リ提案者タル「ホーソーンズウェート」氏ヨリ東洋人排斥条項挿入ノ必要ヲ力説スル処アリシモ首相「オリバー」氏ハ本官ヨリノ抗議ヲ手ニシ該修正ハ日英条約ニ違反セル事ヲ告ケ又若シ之ヲ可決ストナスモ中央政府ハ之ヲ不認可スルコトアルベク如此ハ各員ノ欲スル所ニアラザルベキ旨ヲ陳ヘタルニ提案者ハ遂ニ首相ノ意見ニ同意シ修正案ヲ撤回スルニ至リ候

該案討議中「ホーソーンズウェート」氏ノ主張ニハ相当ノ理由アリ其要ニ曰ク

「余ハ濫リニ日本人ノ排斥ヲ提唱スルモノニアラズ、日本ハ大戦ニ参加シ努力セルモノ多ク又東洋人ハ種々ノ点

ニ於テ吾人ト均等ナルヲ示セリ、然レドモ東洋人ハ本州ニ於テ吾人ノ生活程度ニ順応セズ又安価ノ勞銀ニ安ンズ是レ最モ危惧ニ勝ヘザル処ニシテ余ハ決シテ人種の偏見ヲ有セズ又今日何人モ日本人ヲ劣等視スルモノアラザルベシ、去レバ日本人ニシテ吾人ノ実生活ニ同化スルニ於テハ本問題ハ自然ニ解決セラルベシ、彼等ノ指導者ハ宜シク此旨ヲ以テ善導スル処アルベシ、然ル上ハ此種立法ハ無用トナラン」ト

昨日發往電第九号確メ旁此段報告申進候 敬具

写 オタワ古谷総領事

三〇五 三月十六日

在ヴァンクイヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

B、C、州議會農業委員會ノ東洋人排斥決議

ニ關スル件

公信第六八号

(四月八日接受)

大正八年三月十六日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ關シ在オタワ総領事ニ報告ノ次第有之候ニ付右写御

参考迄ニ及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第二五号写

大正八年三月十六日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

東洋人排斥の決議ニ關スル件

州議會農業委員會ハ一昨十四日ノ會議ニ於テ東洋人入国問題ヲ議シ席上東洋人ニ對シテハ土地所有ヲ拒絶スヘシトノ提案出テタリシモ決定ニ至ラス昨十五日再ヒ會議ヲ開キ大蔵大臣ニ對シテハ在留東洋人ヨリ毎年各其本国宛送金額土地大臣ニ對シテハ在留東洋人所有又ハ借有土地面積ノ查報方ヲ依頼スルニ決シ尚高加索人種ト同化不能ノ人種ハ加奈陀ヨリ排除スヘキ様平和會議ニ提出方ヲ「サー、ロバート、バーデン」ニ要求スヘキヲ決議セリ

右及報告候也

写 外務大臣

三〇六 三月十六日

在ヴァンクイヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

大戦古兵協會ニ於テ東洋人入国禁止決議ノ件

公第七〇号

(四月八日接受)

大正八年三月十六日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

大戦古兵協會ノ東洋人入国禁止決議

本件ニ關シ今般別紙ノ通り在オタワ総領事ニ及報告置候間御参考迄ニ右写及御送付候 敬具

(別紙)

阿往公第二七号写

大正八年三月十六日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

大戦古兵協會ノ東洋人入国禁止決議

当地大戦古兵協會 (The Great War Veterans' Association) ハ去ル十三日會議ヲ開キ東洋人ノ生活狀態ハ加奈陀ノ為メ有害ナリトテ向フ二十年間入加ヲ禁止スヘシトノ決議ヲ通過致シ候

本集会ニ於テ問題トセル東洋人ハ重ニ支那人ヲ指セルモノ

ノ如ク又此種東洋人排斥ハ近来当州各地ニ行ハレ一々枚挙ニ遑無之候得共大戦古兵協会ハ政治的ニモ漸次重要視セラ
ルルニ至リ候間為念此段及御報告候也

写 外務大臣

三〇七 三月十七日 内田外務大臣ヨリ
在ヴァンクーヴァー浮田領事宛(電報)

ルミュー協商ニ於ケル再渡航移民中ニハ妻子

呼寄ヲ含ム旨在オタワ総領事ニ回訓ノ件

第五号

左記電信本大臣訓令トシテ在オタワ総領事へ転電アレ

第六号

貴電第一七号ニ関シ「ルミュー」協商ハ明治四十年機密送
第四号ノ通り確定セリ

在英大使宛同年機密第二五号附属別紙第三号第一項ノ解釈
ニ付テハ御来示ノ如キ疑義ヲ生シ得ヘキモ本件ニ関スル明
治四十一年一月五日附外務大臣ヨリ各地方長官ヘノ内訓渡
航許可標準第一項(大正二年編纂旅券並移民事務取扱書第
十九頁)ニハ明カニ「該証明書ヲ有スル加奈陀在留者ノ妻
子」トアリ所謂呼寄妻子ヲ右第一項中ニ含マシムルコトニ

日本移民入国数ニ関シ在オタワ総領事へ報告

ノ件

公信第七七号

(四月二十五日接受)

大正八年三月二十一日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣子爵

内田 康哉殿

本件ニ関シ在オタワ古谷総領事宛別紙写ノ通り発信致置候
右申進候 敬具

(別紙)

阿往第二九号写

大正八年三月二十一日

在晚香坡領事 浮田 郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

日本移民入国数ニ関スル件

本件ニ関シ客月二十八日付阿往第一九号拙信申進置候次第
有之候処本日領議員クロウ氏ヨリ別紙写ノ通り

在オタワ移民監ニ就キ取調ヘタルニ「ルミュー」協約

ノ一項ニ於テハ単ニ日本苦力ノ入国数ニ制限シアルコ
ト然ルニ一般ノモノハ日本人ノ入国数ニ制限アルモノ

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥関係一件 三〇九

付テハ曾テ疑ヲ生シタルコトナシ而シテ一ケ年渡航数四百
名ノ制限アルハ前記在英大使宛機密第二五号附属別紙第七
号末段ニ Household servants and agricultural labourers
トアルニ依リ明カナルカ如ク前記渡航許可標準第二項及第
四項ノ渡航者ノミナルガ本省ノ調査ニ依レハ此種移民ノ昨
年一ケ年間に渡航数ハ二百五十三人ニシテ協商ノ制限数ニ
達セザルコト遠シ尚ホ昨年中本邦ヨリ加奈陀ニ渡航シタル
者ノ総数ハ二千十三人ニシテ此内訳非移民二百二十七人再
渡航八百六十八人同伴若クハ呼寄ノ妻子六百六十五人家内
使用人百三十二人定着農夫百二十一人ナルガ同年中加奈陀
ヨリ本邦ニ帰国シタル者千八百十一人(一等船客九十一人
二等船客六十五人三等船客千六百五十五人)アルヲ以テ差
引渡航者数ノ帰国者数ヲ超ユルコト僅カニ二百二人ニ過ギ
ズ近来加奈陀ニ於ケル日本人數ノ激増シツアリトノ説ハ
右統計ニ照シ信ズル能ハザル所ナリ右ノ外貴官ハ大正元年
九月機密送第二号ヲ参照シ移民大臣其他ニ対シ適當ノ説明
ヲ与フル様セラレタシ

三〇八 三月二十一日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

ト信シ居レルコト

ヲ告ケ謝意ヲ表シ来リ候

「ルミュー」協約ニヨル本邦移民ノ制限ハ家内使用人及定
着農夫ニ限ラレ居ルハ去ル十七日発信電第五号ノ通り当館
ニ於テハ毫無疑ヲ存セザリシ処ニ有之當領移民当局ニ於テ
モ同様ノ見解ヲ持シ居レルハ右ニヨルモ明カナル次第ト存
候就テハ去ル十四日付貴信機密第二号(大臣宛往電第十七
号)末段ニ関シ御参考マテ本日第十八号ノ通り電報候次第
ニ有之候別紙相添ヘ此段申進候也

写 外務大臣

註 別紙三月十四日附クロウ領議員ヨリ浮田領事宛書翰写省略

三〇九 三月二十一日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
田中通商局長宛

日本移民問題ニ関シ在オタワ総領事ニ報告ノ

件

号外

(四月二十五日接受)

大正八年三月二十一日

在晚香坡 浮田 領事

田中通商局長殿

移民問題ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ古谷総領事ニ発信致置候間御参考迄右写供貴覽候 敬具

(別紙)

親展

大正八年三月二十一日

在晚香坡 浮田 領事

在オタワ古谷総領事殿

拝啓陳者過般来当方面ニ行ハレ居リ候東洋移民問題モ近時愈々中央ニ伝播シ御心勞ノ程御同察申上候昨夕ノ当地ウオールド紙ハ人種の差別撤廃並ニ日本移民問題ニ関スル大兄トノ会談電報ヲ掲ケ居リ頗ル時宜ヲ得タルモノト存候当州ノ移民問題ハ今ヤ中央政府ノミナラズ在巴里加奈陀使節ノ甚大ナル注意ヲ惹キ居レル事ハ別紙切抜末段ノ巴里電報ニヨルモ明ナル次第ト存候

日本人ノ入国移民数ニ関シ州議會軍人議員 Major Burdeハ一昨十九日議場ニ於テ日本移民ノ入国数ハ約定数ヲ遙カニ超過セル旨演說致シ居リ候本件ニ就テハ曩ニ首相宛説明致シ置候ニ付政府側ニ於テハ事情明瞭シ居レル次第ニ候貴

ヲ加ヘラルルカ如キ事アラハ在留民ノ苦痛之レヨリ甚タシキハ無之ト存候(規程ニ基ツキ不都合ノ輩ニ對シテハ勿論許可セズ)

為御参考不取敢右申進度早々

写 通商局長

註 別紙省略ウオールド紙切抜省略

三二〇 三月二十四日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
田中通商局長宛

中国移民及日本移民ニ関シ在オタワ総領事ニ

報告ノ件

附屬書

三月二十四日附在晚香坡浮田領事ヨリ在「オタワ」古谷総領事宛書翰写

号外

大正八年三月二十四日

(四月二十五日接受)

在晚香坡領事 浮田 郷次

田中通商局長殿

本件ニ関シ今般別紙ノ通り在オタワ古谷総領事ニ発信致置候間御参考迄右写供貴覽候 敬具

(別紙)

信ノ如ク加奈陀人ハ一般日本人ノ入国数ヲ「ルミュー」協約ニヨリ四五百名ニ制限シ居ルモノト誤信致シ居リ候間此ノ儀ハ差支ヘナキ程度ニ於テ判然トナシ置ク方利益ト存候定着農夫及家内使用人呼寄証明發給ノ概數ハ客月二十五日付阿往第一六号ヲ以テ及御通知置候得共尙既往五ケ年間ニ於ケル妻子呼寄証明數ト共ニ表示スレハ左ノ通りニ有之候

家内、定着 妻子

大正三年 九二 三五九

四年 一〇一 二五五

五年 一二四 三八六

六年 三二一 五〇五

七年 三五九 六二六

計 一、〇九七 二、一三一

休戦後ハ労働市場ノ現況ヲ考ヘ家内、定着双方共呼寄許可ニ對シ手加減ヲ嚴ニ致シ居リ昨年ノ如キ殆ド「マキシマム」見当ニ發給シ来リ尚ホ在留民側ノ苦情百出ノ状態ナリシカ故少シク引締リ来レル現今ノ許可状況ニ對シテハ更ニ一層ノモノ有之實際同情ニ堪ヘザルモノモ多數有之候得共大局ニ顧ミ引締ルヘキハ引締リ居リ候今若シ妻子呼寄數ニ制限

写 親展

大正八年三月二十四日

在晚香坡 浮田 領事

在オタワ古谷総領事殿

拝啓陳者去ル二月十日付阿往第八号拙信ヲ以テ申進置候市會ニ於ケル支那領事業可樑氏ノ陳述ハ果シテ蠍蛇ト相成リ一昨日オタワ發新聞電報ニシテ信ナリトセハオタワニ於テ同領事ノ陳述ヲ基礎トシ支那人入国ニ関シ新ニ種々ノ制限ヲ加フル事ニ決定セルモノノ如クニ候

支那人問題ニ付一段落付キ候カラニハ次テ起ルヘキハ日本移民制限方ニアルハ言ヲ俟タス候

去ル二十一日付拙信ヲ以テ不取敢及御通知置候通り「ルミュー」協約ニ於テハ家内使用人及定着農夫數ニ制限ヲ加ヘ居リ候得共妻子呼寄ニハ別ニ制限無之然ルニ近來入加本邦移民ノ多數ヲ占ムルモノハ妻子呼寄ニ屬スルモノニ有之(前信該呼寄表ノ件數ハ一件中稀ニ妻子、子ハ一名以上ノモノモ含マレ居リ候ニ付此儀御承知置相成度候)去レハ此上制限スルノ止ムヲ得ザレバ写真結婚ニヨルモノノ呼寄ニ有之候得共之レ迎大兄ヨリ先方ヘ御提言相成ルカ如キハ斷

シテ不得策ト存候

前記御通知申上候妻子呼寄証明ハ現ニ当地方ニ残留セルモノヨリ願出タルモノニ有之候得共昨年及一昨年ニ於テハ好景氣ノ為メ母国觀光團ニ加ハリ或ハ個々帰朝セルモノ多ク昨大正七年帰国者ニ付与セル在留証明中

妻同伴(此中ニハ子供ヲ含ムモノアリ) 九九件(再渡航者モアリ)

迎妻ノ上妻同伴 二一二件

子供同伴(一名以上ノモノアリ) 一二〇件

ニテ右ハ予期ノ如ク必ズシモ皆妻子同伴帰加スルモノニアラサルモ普通妻子呼寄ノ分ト合シ可成多数ニ相上リ候帰国者数ハ

大正三年 九一八

四年 六四四

五年 四五一 (大戦勃発市場沈衰、呼寄、帰国共ニ比較減)

六年 九八一

七年 一、〇六三

ニ有之候

過日新聞通信員ヘ御会談記事中本州在留民七千位ニ御話相成居候得共当州民ハ夫レヨリ多数ナルコトハ当市及附近在

留民数ヨリ打算シテモ承知ナルヘク存候先ツ男女子供合セテ一万二、三千人位ト御話シ被下置可然存候管内人口表別紙供御参考候該表ニヨレハ前年度ヨリ一、二六六人ヲ増シ居リ候出生死亡統計只今品切レニテ御送付致シ兼候得共年々七百名内外ノ出生アルコト御承知置相成度之レニ新渡航者ヲ合シ毎年一、二千名ノ増加アリテ可然次第ナルモ從來当館ノ人口調査ニハ現ハレ不申去リトテ帰国シテ再渡セサルモノハ極メテ少数ノ様存セラレ候即チ年々少ナカラサル人員合衆国ヘ密入候モノト推察致シ候

貴地ニ於ケル日本人入国問題モ追々ニ面倒ト相成リ来リ候様見受ケラレ旁々御参考マテ右御内報申上候勿々
通商局長

註 別紙人口表省略

三一 三月二十七日 在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

議會ニ於テ移民大臣移民法改正案提出予告ノ件

第二一五 (三月二十八日接受)

三月二十四日議會ニ於テ「ビー、シー、」州議員クレメンツ

氏主トシテ論弁シ移民問題ニ言及スル処アリタルカ移民大臣ハ過去ニ於ケル加奈陀移民政策(入国制限ノ寛大ニ過キタルコトヲ指スモノト解セラル)ノ誤レルコトヲ承認シ加奈陀ハ現ニ其結果ニ苦シミツツアルコトヲ述ヘ玆数日中ニ移民法改正案ヲ提出スルコトヲ予告シタリ

三二 三月二十八日 在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ移民法改正案ニ於テ日本人ニ対シ区別的条項ヲ見ルニ至ラザル様尽力方予メ移民大臣及首相代理ニ要請ノ件

第二四号 (三月三十日接受)

「ビー、シー、」州ニ於テ盛ニ論議セラレ居リシ移民問題ハ今ヤ当地ノ問題トナリタリ輿論ノ傾向ハ一般ニ入国制限ヲ嚴重ニシ善良ナル移民ヲ得サル可ラス即チ量ヨリモ質ニ注意スヘシト云フニ在ルモノノ如シ本官ハ過般移民總監ヲ往訪シ帝國政府カ「ルミュー」協約ノ実行ニ充分忠実ナルコトヲ説明シ議員等ヨリ何等質問有ル場合ニハ正確ナル説明ヲ与ヘ呉ルル様依頼シ置キタルカ往電第二一五ノ通移民法改正案愈々議會ニ提出セラルルコト成リタルヲ以テ廿七

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三二

日移民大臣ヲ往訪シ帝國政府カ「ルミュー」協約実行ノ為執リ居ル手段ト其効果ノ顯著ナルコトヲ詳細ニ説明シ且ツ之ニ関スル覺書ヲ手交シタルニ同大臣ハ一々之ヲ首肯シタリ依ツテ本官ハ帝國政府カ條約上ノ權利ニ拘ラス自ラ此制限ヲ加ヘツツ有ルハ実ニ一ハ加奈陀ノ法律ニ依リ区別的待遇ヲ与ヘラレザランガ為ナリ加奈陀カ日英條約ニ加入ノ際ニモ日本人ニ対シ区別的待遇ヲ為サザルコトニ関シテハ公文モ交換セラレ居ルニ付来ルヘキ改正案ニハ何等日本人ニ対スル区別的待遇ノ条項ヲ有セザルコトハ本官ノ期待スル所ナリト述ヘタルニ案文ニハ何等斯ノ如キ条項ナク一般ニ「ヘルス、メンタリテイ、エヂュケーション」ニ関シ標準ヲ高メテ入国ヲ制限セントスルモノナリト述ヘ教育試験ノ語學ノ種類ニモ制限ナク何語ニテモ可ナルコト等其他本官ノ質問ニ応シ一々丁寧ニ説明シタル後日本カ自ラ「ルミュー」協約ヲ遵守シ居ル以上現政府ニ於テハ此上日本移民ニ対シ制限ヲ加フル必要ハ毫モ認メ居ラス尤モ議院ニ於テ如何ナル修正案出ツルヤハ全ク予見シ能ハサル所ナリト述ヘタルニ付本官ハ米國移民法案討議ノ場合ノ例ヲ述ヘ排日的修正案ノ現ハルル場合ニハ政府ニ於テ其削除ニ充分ノ尽力

ヲ与ヘラルヘキコトヲ要請シタルニ移民大臣ハ之ヲ快諾シ
尚ホ本官ヲシテ形勢ノ推移ニ充分 Keep in touch ナラシ
ムヘシト約シタリ尚ホ目下ノ処「ビー、シー」州ニ於ケル
外国移民反対ノ声非常ニ高ク毎日ノ如ク決議文等ノ電報ヲ
受取り居ル有様ニテ政府モ頗ル困難シ居ルニ付此処暫クノ
処日本政府ニ於テ特ニ注意シテ手加減ヲ加ヘラルコトヲ
得ハ幸甚ナリト附言シタルヲ以テ右ハ兎モ角日本政府並ニ
在晚香坡領事ニ電報スヘシト約シ相互ニ充分ノ了解ヲ得テ
別レヲ告ケタリ

尚ホ廿八日朝臨時首相代理ト会见ノ約有リタルヲ以テ序ニ
大体右移民大臣ニ対シ述ヘタルト同一ノ趣旨ヲ述ヘタルニ
首相ハ日本政府カ其約束ノ履行ニ忠実ナルコトハ自分ノ曾
テ疑ハサリシ所ニシテ「ルミュー」協約ノ履行ニ関スル我
移民当局ノ報告モ亦之ニ一致スト述ヘ區別の待遇ニ対スル
帝國政府ノ立場ニ同情シ尚ホ本官ノ請求ニ答ヘ加奈陀議會
ニ日本ニ対スル區別の待遇ヲ意味スル議案ノ成立セサル為
ニハ尽力ヲ惜マサルヘシト述ヘラレタリ

移民法案ハ来週始メニ提出セラルル筈

晚香坡ヘ濟

リト述ヘタルコトアリタルヲ以テ本官ハ右ヲ引用シ帰化加
奈陀人ハ既ニ日本国民ニ非ザルヲ以テ本官ハ公然ノ資格ニ
於テハ何等「インテレスト」ヲ取ルモノニ非ザルモ在加奈
陀日本人中今回ノ大戦ノ初ニ於テ百九十二人ノ義勇兵加奈
陀ノ遠征隊ニ加リテ出戦シタル事実並ニ右ノ内五十二名ノ
死者ト百三名ノ負傷者ヲ出シタルコト並ニB、C、州人ニ
シテ第一ニ「ヴェキクトリヤ、クロス」ヲ得タルモノハ日本
種加奈陀人ナリシコトハ日本種加奈陀人ノ加奈陀ニ対スル
忠誠ノ念ナキコトヲ反証スルモノニ非ズヤ後徴兵制実行セ
ラレB、C、州ニ於ケル日本種加奈陀人中多少ノ紛紜アリ
シハ畢竟之ヲ好機トシテ選挙権ヲ得ントシタルノミ之亦同
情ニ値スルヲ述ヘタルニ両大臣共ニ之ヲ首肯シ殊ニ總理大
臣代理ハ他日機会アラハ議院ニ於テ此事ニモ言及スヘシト
述ヘ且ツ西部州ノ議員等ハ一体言論ニ無遠慮ナルニ付適當
ニ之ヲ戒飭スル処アルヘシト附言セラレタルヲ以テ戒飭云
々ハ頗ル delicate ノロトニ付寧ロ其事ナキニ如カサル乎
ト述ヘタルニ然ラハ万事自分ノ discretion ニ任シ呉レト
述ヘラレ候依テ本官ハ更ニ日加貿易ノ最近ニ於ケル長足ノ
進歩ヲ統計ヲ示シテ説明シ之レ日加条約關係ニ負フ処尠カ

三二三 三月二十八日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛

カナダ移民法改正等ニ関シ首相代理及移民大

臣ト会談ニ付報告ノ件

機密公第四号

(四月二十九日接受)

大正八年三月二十八日

在オタワ

總領事

古谷重綱(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シ三月二十七日移民大臣並ニ臨時總理大臣代理往
訪ノ事ハ往電第二四号ヲ以テ及報告候処其節「ルミュー」
協商実行ノ方法説明ノ為別紙第一号覚書並ニ実行ノ結果説
明ノ為別紙第二号覚書ヲ携帯シ之ヲ両大臣ニ手交シタル
ニ何レモ精読ノ上之ヲ首肯致シ候尚過般領議會ニ於テB、
C、州議員「マツカリ」氏カ漁業鑑札ノ大多数カ日本人
ノ手ニ渡ルコトニ関シ何等乎ノ手段ヲ執ルノ必要アルコト
ヲ論シタル際法律ノ結果漁業鑑札カ外国人ノ手ニ入ル筈ナ
キニ非サヤトノ一議員ノ質問ノ結果「マツカリ」氏ハ然
リ彼等ハ帰化加奈陀人ナルモ之只單ニ職業ノ為メノ帰化ノ
ミ真正ノ帰化ニ非ズ彼等ハ依然トシテ彼等ノ皇帝ニ忠実ナ

ラスト述ヘ且ツ本年帝國議會ニ於テ小麦及ヒ小麦紛免税ノ
事ヲ討議シツツアルヲ以テ遠カラス事実トナルヘク之加奈
陀ノ対日貿易ノ為ニ大ニ喜フヘキコトナリト述ヘタルニ小
麦及小麦紛ハ加奈陀ノ基礎の物産ナルヲ以テ両大臣共ニ大
ニ interest ヲ感シタルモノノ如ク本問題ニハ非常ノ熱心ヲ
表示シ小麦及小麦紛カ日本ニ多量ニ輸出セラルルニ至ルハ
加奈陀ノ最モ喜フ所ナリトテ之ニ関シ各種ノ質問ヲ発セラ
レ候右ハ大体両大臣会談中共通ノ事項ニ付茲ニ一併及報告
候右移民大臣及首相代理トノ会談ニ先ツ約二週間偶々秘密
院議長兼臨時外務大臣「ローウエル」氏ト会談ノ機会アリ
タルヲ以テ其際ニモ帝國政府カ「ルミュー」協商ヲ誠実ニ
実行シ居ルコト並ニ日本種加奈陀人ノ義勇兵ノ事実ニ関シ
詳細説明シ置キタルニ必要ノ場合ニハ議院ニ於テモ之ヲ論
及スル処アルヘシトテ記述書ヲ求メラレタルニ付義勇兵ニ
関スル別紙第四号記述書ヲ第三号書面ト共ニ送付致置候其
際ハ移民問題ハ未タ当面ノ問題トナリ居ラサリシニ付第三
号書面後段ノ通り述ヘ置キタル次第第二有之候
何等御参考ノ為メ茲ニ附記致置候 敬具
写送付先 晚香坡

註 別紙省略

三一四 三月二十九日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

州議會農業委員會ノ東洋人排斥決議ニ関スル
件

公第七九号 (四月二十五日接受)

大正八年三月二十九日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関スル在オタワ総領事宛発信(阿往第三二号)写御
参考迄及御送付候 敬具

(別紙)

阿往第三一号(写)

大正八年三月二十九日

在晚香坡領事 浮田郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

東洋人排斥の決議ニ関スル件

州議會ニ於ケル農業委員會ニ於テ「コーケシヤン」人種ト
同化シ能ハサル人種ノ加奈陀入国禁止方ニ関シ決議セル次

トトスヘシ

貴館ニ於テモ再渡航者以外ノ者ニ対スル証明發給數ヲ当分
昨年度ノ約三分ノ一位ニ制限セラレタシ

本電信在オタワ総領事ヘ転電アレ

三一六 三月三十一日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

B、C、州議會閉会ノ件

第一四号

当州議會ハ無事二十九日閉会セリ

決議諸法案中ニハ特ニ日本人ニ対シ差別セリト思ハルルモ
ノナシ

三一七 四月一日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

呼寄証明發給制限ノ実情ニ関シ在オタワ総領

事ヘ電報ノ件

第一五号

本官發在オタワ総領事宛電報

貴官御参考迄ニ転電ス

第二四号

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三一六 三一七 三一八

第八去ル十六日阿往第二五号末段ヲ以テ及御通知置候処本
件ハ一昨二十七日決議案トシテ議場ニ上程セラレ別紙写ノ
通り可決セラレ候

在巴里平和會議帝國使節ハ過般來國際連盟案中人種の差別
撤廢案項挿入方腐心ノ旨連日新聞電報相見エ從テ当州ノ如
ク多年排日の態度ヲ取り來リタル地ニ於テハ自然如此案項
ノ挿入ヲ喜ハザルモノ多ク我カ使節ノ行動ニ対シ不安ノ念
ニ驅ラレ右様決議ヲ見ルニ至リタルヤニモ推察致サレ候
別紙決議文写相添ヘ此段申進候也

写 外務大臣

註 別紙決議文省略

三一五 三月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在ヴァンクーヴァー浮田領事宛
(電報)

カナダ行日本移民ノ制限ニ関シ訓令ノ件

第八号

古谷總領事發本大臣宛來電第二四号中段移民大臣ノ希望ノ
次第モアリ本省ニ於テハ当分緩和と策トシテ再渡航者以外ノ
定着農夫家内使用人及呼寄妻子ニ対スル旅券發給數ヲ之等
ノ者ニ対スル昨年度發給數ノ約三分ノ一見當ニ制限スルコ

外務大臣宛貴電第二四号ニ関シ當館ニ於テハ特ニ時局ニ鑑
ミ既ニ本年一月ヨリ漸次呼寄証明殊ニ定着農夫家内使用人
呼寄証明數ヲ減シ二月ニハ昨年度月割發給數ノ三分ノ二ニ
三月ニハ更ニ半分ニ削減セリ尚妻子呼寄ニ付テハ銳意制限
ノ態度ヲ採リタルモ平和克復ノ影響ヲ受ケ居ルト目下毎年
呼寄ノ節ナルヲ以テ昨年同期ニ比シ著シキ減少ヲ見ル能ハ
サリシモ(尤モ妻子呼寄ニハ多數再渡航ヲモ含ム)今後ハ
漸次減少スル見込ナリ右御参考迄ニ申進ス

三一八 四月二日 在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ行旅券ノ發給制限ニ関シ日本政府ノ意

向移民大臣ニ申入並ルミュー氏ノ談話ニ付報

告ノ件

第二五号 (四月三日接受)

貴電第八号ニ関シ四月一日移民大臣ニ面會帝國政府ハ加奈
陀移民法改正討議ノ際日本人ニ対スル区别的待遇ヲ意味ス
ル案項提案セラルルモ極力之ヲ排除スルニ尽力スヘシトノ
貴大臣ノ談話ヲ重視シ且貴大臣ノ希望ニ副ハンカ為メ當分
ノ内其加奈陀行旅券ノ發給數ヲ可成制限スルコトニ決定シ

在晚香坡領事ニ於テ其証明ノ發給ニ際シ手心ヲ加フヘキ旨訓令ヲ受ケタル趣ヲ述ヘタルニ移民大臣ハ大ニ満足ノ意ヲ表シ for the time being 右ノ如キ手段ヲ取ララルニ於テハ甚タ好都合ナリト答ヘタリ尚ホ同大臣ハ前回面会ノ際予ハ個人トシテハ日本人ノ来住ニ反対セス唯「ビー、シー、」州ニ於ケル形勢ノ緩和ヲ必要トスルノミト語ラレタリ御參考迄ニ申添ユ

又過般反對党領袖「ルミユウ」ト面会シ移民問題ニ関シ十分懇談シ氏ノ希望ニ応シ各種ノ材料ヲ供給シタル処氏ハ自分（ルミユウ）ハ協商ノ為メ日本ニ渡航シタル以来常ニ熱心ナル日本ノ味方ナリ必要ノ場合ニハ日本ノ為メニ十分尽力ヲ惜ムモノニ非スト述ヘラレタリ（右晚香坡領事スミ）

三一九 四月十日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

カナダ行移民制限ニ関シ國務大臣バーレルト

会谈ノ件

第三二号

（四月十一日接受）

「セクレタリー、オヴ、ステート」バーレル」ハB、C、州出身ノ唯一人ノ内閣員ナルヲ以テ本官ハ過般機會アル毎

ニ之ニ接近スルコトヲカメ昨今大分懇意ノ間柄トナリタルニ付四月八日往訪ノ上一時間ニ亘リ本官ハ先ツ帝國政府カ「ルミユウ」協商ノ実行ニ誠実ナリシコトヲ説キ右実行ノ結果ヲ示セル覚書（首相代理及移民大臣ニ与ヘタルモノト同文ニシテ機密送第四号ヲ以テ郵送済ミ）ヲ示シタルニ氏ハ之ヲ一読シ右実行ノ結果ノ顯著ナルヲ認識シB、C、州議員ハ東洋移民禁止ニ関シ何等カ手段ヲ執ラサル可カラサルコトヲ確信シ近々予ト談合スル筈トナリ居ルニ付其節日本移民ノ真相ヲ示ス為好箇ノ材料ヲ得タリトテ謝意ヲ表シタルニ付東洋移民禁止ニ関シ如何ナル手段ヲ執ラントセラルヤト問ヒタルニ「オーダー、イン、カウシシル」ヲ以テ亜細亜全体ヨリノ移民ヲ禁止セハ可ナラント思フトノコトナリシニ付夫ハ区別の待遇ニシテ帝國政府ニ於テ到底承認スル能ハサル可ク帝國政府カ「ルミユウ」協商ヲ誠実ニ守リツツアルモ区別の待遇ヲ受ケザランカ為ニシテ加奈陀カ日英条約ニ参加ノ際ニモ其趣旨ヲ以テ公文ヲ交換セリト述ヘタルニ然ラハ誰人タルヲ問ハス労働者ノ外国ヨリB、C、州ニ入ルコトヲ禁スルコトトス可シ右ノ如クスレハ斷シテ区別の待遇ニアラスト主張セルニ付本官ハ右ノ如クス

ルモ其適用及ヒ精神ニ於テ健ニ区別のナリ加之「ルミユウ」協商ハ兩國間ノ協約ナルニ付日本ニ於テ誠実ニ之ヲ実行シ居ル以上日本ノ同意ナクシテ勝手ニ加奈陀側ヨリ破毀ス可キモノニアラサルコトヲ論シタルニ「バーレル」氏モ兎モ角実行ノ場合ニハ之ヲ貴下ニ打合ス丈ケハ予ニ於テモ之ヲ義務ナリト認ムトノコトニ付本官ハ区別の待遇ノコトニ就テハ目下日本ニ於テ感覺非常ニ鋭敏トナリ居ルニ付本件ハ慎重ニ取扱ハレタキ旨呉々依頼シタリ夫レヨリ氏ハ加奈陀ト印度間ニ於ケルカ如ク日本ト加奈陀カ双方対等ノ地位ニ立チテ相互ニ移民ノ入国ヲ禁スルコトトセハ日本ノ威厳ヲ維持シ双方ニ都合善カル可シ試ニ貴見承知シタシト云ハレタルニ付右事實上片務のニシテ日本政府ハ之ヲ喜ハサル可シト答ヘタリ氏ハ更ニ曰ク頃日B、C、州首相ハ東洋人特ニ支那人ナル可シト思フガ「オカナガン」地方其他ニ於テ（不明）ニ地面ヲ購入シ其為メ輿論大分喧シクナリ居ルニ付州議會ニ於テ東洋人ノ土地所有ヲ禁止スル法律ヲ制定スルコトヲ必要ト認ムルモ斯ノ如キ法律制定ノ結果領政府ニ於テ不認可ヲナスヤ意向予メ承知シタキ旨問合セ来レリ予ハ彼等カスノ如クシテ責任ヲ中央ニ転嫁セントスルモノ

ナルコトヲ知ルヲ以テ右ノ如キ場合ニハ充分「シンパセチカリ」ニ「コンシダー」スルコトトナルヘシト non-committal ノ返事ヲナシ置キタリ併シ之ニ関シ加奈陀人ハ日本ニ於テ如何ナル取扱ヲ受ケ居ルヤ承知シタシトノコトナリシヲ以テ土地所有ヲ外国人ニ許ス法律ノ施行勅令目下詮議セラレ居ルコト竝外國人カ法人トシテ土地ヲ所有シ得ルコト等ヲ説明シ右B、C、州首相ノ云ヘルカ如キ法律カ日本人ニ適用セラルルコトハ直ニ日英条約ノ違反ナルコトヲ指摘シ日本政府ハ斷シテ之ヲ承認スルコト能ハサルコトヲ述ヘタルニ加州土地法ノコトヲ聞カレタルニ付之ニ対シ説明ヲ与ヘ置タリ本官ハ進シテ日加貿易統計ヲ示シ兩國貿易ノ増加ハ喜フヘキ現象ニシテ殊ニ小麦ニ対スル日本輸入税ノ廃止ハ更ニ好影響ヲ与フヘシト述ヘタルニ氏ハ予ハ加奈陀ハ日加貿易ニ依リテ得ル所鮮ナシトノ論ヲ持シ今尚之ヲ変セサルモノナルカ昨年加奈陀輸出ノ増加ノ著大ナルコトハ之ヲ認ムルモ日本品ノ加奈陀輸入ノ激増殊ニ驚ク可ク日本ハ低廉ナル勞力ヲ以テ加奈陀及米國市場ヲ占有スルニ至ルヘシト述ヘタルヲ以テ予ハ日本勞銀ノ増加セルコト日本品ハ加奈陀ノ製造品ト競争ノ地位ニ在ラザルコト竝多ク

輸入セント欲セハ又多ク輸出セサル可カラサルコトヲ述ヘ
タリ其他日本人義勇兵等ニ関スル談話ハ之ヲ省略セルモ要
スルニB、C、州議員中最穩健ニシテ且ツ近來本官トハ頗
ル惡意ニナシ居ル「バーレル」氏ニシテ尚且右ノ如キ意見
ヲ持シ且ツ東洋移民絶対禁止ヲ目的トスル総督令發布ニ就
テハ近々B、C、州議員全部ト協議ヲ遂ケタル上移民大臣
ト協議スル積ナル旨語リタルニ付本件ノ将来ハ決シテ樂觀
ヲ許サス本官ニ於テモ之カ防止ニ就テハ充分ノ監視ト努力
ヲ怠ラサル可シ

晚香坡へ転電セリ

三二〇 四月十二日

在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民制限ニ関シ國務大臣バーレルトノ意見交

換ニ付報告及請訓ノ件

第三三三

(四月十三日接受)

移民問題漸ク險惡ナラントスル形勢モアリ旁四月九日夜会
ヲ催シタル各大臣夫妻全部B、C、州議員中ノ有力者等モ
出席本問題ノ解決ニモ多少ノ好影響ヲ及ホスモノト信ス四
月十一日朝國務大臣「バーレル」氏ヲ往訪シ「ルミュー」

協商実行ノ方法ヲ説明セル覺書ヲ与ヘ且ツ之ヲ説明シタル
ニ日本政府ノ誠意ハ自分ニ於テモ之ヲ認ムル事ヲ述ヘタル
ヲ以テ本官ハ何等政府ノ訓令ヲ受ケ居ラザルモ左ノ如ク言
明スルモ日本政府ノ意思ニ背カザルコトヲ確信ス即チ「ル
ミュー」協商ハ即チ依テ以テ日本移民ヲ調節セントスル日
加兩國間ノ約束ナルカ故ニ日本カ此ノ約束ヲ実行シ居ル以
上日本ニ相談ナクシテ勝手ニ加奈陀側ニ於テ之ニ影響ヲ及
ホスヘキ手段ヲ執ル可カラサル事移民ノ入国ヲ禁止スル總
督令ニハ移民ニ関シ協約ヲ有スル国ノ臣民ニハ之ヲ適用セ
サルコトヲ明記スルコトナリト述ヘタルニ「バーレル」氏
ハ第一ハ自分ニ於テモ之ヲ認ムルニ付總督令發布ノ場合ニ
ハ必ス予メ之ヲ貴下ニ通知スヘシ第二ニ付テハB、C、州
ノ人心目下頗ル險惡ニシテ之ヲ満足セシメザレハ何時暴動
ニ変ゼザルヤヲ保シ難シ一般人民ハ冷静ニ理論ヲ考フルモ
ノニアラズ無職ノ帰還兵等ハ単ニ東洋人ヲ見タルノミニテ
自己ノ職業ヲ奪フモノトシテ憤慨逆上スルモノモアルヘシ
總督令發布ノ場合日本ニ對シテノ文明ヲ以テ例外ヲ設ク
ル事ハ公平の政略ナリトハ思ハレス又日本ト雖モ前回ノ如
ク事實上除外ヲ受クレハ法文上ノコトハ左迄差支アルマジ

事實上ハ日本ニ對シ例外ヲ設クル事ハ至当ナランカト自分

ル事アラハ御電訓ヲ請フ
在晚香坡領事済ミ

三二一 四月十四日

在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ移民法改正ノ要点ニ付報告ノ件

第三四四

(四月十五日接受)

移民法改正案四月七日提出セラレ直ニ第一読会ヲ通過セリ
改正案ハ直ニ郵送セリ改正ノ主要ナル点ハ現行法ニ依レハ
三年ニテ domicile ヲ得タルヲ五年トスルコト加奈陀生レ
ノ英国臣民以外ノモノハ一ケ年ノ国外居住ニ依リ原則トシ
テ「ドミシル」ヲ失フコト入国ニ讀書試験ヲ行フコト移民
ノ身体検査ヲ其出發國又ハ船中ニテ行フノ規定ヲ設クル權
力ヲ總督ニ与フルコト竝現行移民法第三十八條(C)項ヲ左ノ
如ク改正スルコト

“C” Prohibit or limit in number for a stated period

or permanently the landing in Canada or the landing
at any specified port or ports of entry in Canada of
immigrants belonging to any nationality, race or reli-
gious sect or of immigrants of any specified class or

occupation, because of any economic, industrial or other condition temporarily existing in Canada or because such immigrants are deemed unsuitable, having regard to the climatic, industrial, social, educational labour or other conditions or requirements of Canada.

三三二 四月十四日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ移民法改正案ハ暫ク此儘看過スルヲ適

当ト認ムル旨稟申ノ件

第三五号

(四月十五日接受)

往電第三四号ニ関シ

移民法第三十八条項ノ改正案ハ主義トシテ人種の国民的區別待遇ヲ維持スルモノナルカ故ニ甚タ好マシカラサル条項ナルモ此主義ハ現行法ニモ明記セラレ帝國政府ハ加奈陀カ日英通商条約加入ノ際ニモ之ニ対シ異議ヲ唱ヘザリシモノナルヲ以テ今更之ニ対シ苦情ヲ申出ツルノ余地ナシト認メラル加之本件成案ハ政府ノ提出案ナルコト竝歐羅巴ヨリノ移民ヲモ制限シテ所謂量ヨリモ質ニ重キヲ置ク可シトノ議論ノ盛ニ唱ヘラレ居ル現在ノ輿論ノ趨勢ニ鑑ミ仮令之ニ異

議ヲ申入ルルモ到底成功ノ見込ナシト思ハルルノミナラズ加奈陀ノ移民撰択權ニ干渉スルモノナリトノ議論ヲ惹起シ却テ面白カラザル結果ニ終ル可シト観測セラル且ツ事實上日本人ニ区別的待遇ヲ与フルヤ否ヤハ總督令發布ノ時ニ至リ始メテ起リ来ル問題ナルカ故ニ今日ニ於テハ此儘看過スルヲ以テ機宜ノ措置ナリト信ス

三三三 四月十五日 内田外務大臣ヨリ
在オタワ古谷総領事宛(電報)

移民禁止又ハ制限ノ總督令公布ノ場合ニ対シ

日本人ヲ除外セシムル様尽力方回訓ノ件

第一二号

貴第三三三号ニ関シ

曩ニ移民大臣カ貴官ニ対シ此上日本移民ニ対シ制限ヲ加フル必要ハ毫モ認メ居ラズ(貴電第二四号)ト言明セルハ帝國政府ノ満足スル処ニシテ此際加奈陀政府カ我移民ニ不利ヲ与フヘキ何等ノ施設ヲナス事ナカルヘキヲ確信スルモ若シ貴電ノ如ク新ニ總督令ヲ発シ日本人ノ入国ヲモ他ノ東洋人ト同様禁止又ハ制限スル事アリトセハソハ「レミュー」協約ニヨリ日本カ多年自制セル処ヲ無視スル不信ノ行為ニ

決議等ニ関シ在オタワ総領事ニ報告ノ件

親展

大正八年四月三十日

在晚香坡

浮田領事

田中通商局長殿

別紙在オタワ古谷総領事宛親展書写御参考迄供貴覽候敬具
(別紙)

親展(写)

大正八年四月三十日

在晚香坡

浮田郷次

在オタワ 古谷総領事殿

拝復欠日付貴信一昨日接到御来示ニ係ル資本及労働關係取調査委員ノ一行ハ「ヴィクトリア」ニ直行二日間同地ニ於テ調査ノ後昨朝当地ニ来リ昨今両日ニ涉リ調査ヲ開始致シ甚タ多忙ニ見受ケ候從テ「ジョンソン」氏ニハ未タ面会ノ機ヲ得ス候

「ヴィクトリア」ニ於ケル調査ニ於テ二三ノ証人ハ同方面

東洋人労働者排斥問題、日本人土地所有排斥

三三二 四月三十日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
田中通商局長宛

就働東洋人排斥ヲ為セシモノ有之候モ右ハ主トシテ「ソーミル」働キ支那人ヲ指スモノニ有之候然レトモ御来示ノ如ク東洋人ナル総称中ニハ日本人ヲ含ミ甚タ不利ニ有之候間機會モアラハ「ジョンソン」氏マテ弁明致シ置度存居候当地ニ於テ調査ニ対シ小生ハ日本人会幹事及本邦人労働組合等ニ關係深キ吉江三郎ヲ招致シ対策研究候処実ハ這次ノ産業調査会ニ対シテハ西洋人側労働組合ニ於テハ初メヨリ余リ重キヲ置カス從テ進ンテ代表者ヲ出サス又「ロッガイ」組合ヨリハ先般来日本人同業者ニ加入ノ勧誘アリ可成加入セシムル方針ヲ採リ来リ而テ同組合ハ主義トシテ人種の差別ヲ措カサルモノニ有之去レハ東洋人問題ニ対シテハ労働組合側ヨリハ左シタル反対起ラサル見当ニ有之事情如此ナレハ今日本人側ヨリ進ンテ其立場ヲ明カニセントセハ却テ目立チ他方面ニ反抗ヲ惹起セシムルノ虞モ有之候ニツキ日本人ノ出席ヲ見合ハセB、C、「パッカー」ス、アッソシエーション」書記長及各「ソーミル」支配人等ニ内話シ必要ノ場合日本人ニ対シ不利益ニナラサル様陳述方ヲ依頼シ別ニ西洋人ヲシテ取調ノ模様ヲ探知スル事トナシ置キタル次第ニ有之候処昨日ノ取調ニ於テハ格別不利益ナル問題モ

B、C、州ニ於ケル東洋人渡航防止ノ世論ニ

関シ移民大臣ト会谈ニ付報告ノ件

第三七号

(五月三日接受)

四月十四日移民大臣ヲ往訪、過般國務大臣「バーレル」氏ト会谈シ「ビー、シー、」州議員等カ他州ニ於ケル形勢ニ鑑ミ東洋移民ニ対シ何等カ手段ヲ講ゼザルベカラザルコトニ付キ談合中ナル旨承知セリ然ルニ本官承知スル処ニテハ「ビー、シー、」州ニ於ケル輿論ハ日本人ニ対シテ彼等ノ云フ程ニ險惡ナリトハ思考セラレズ過般議會ニ於テ一議員ハ晚香坡ニ於ケル「グレート、ウォア、ベテランス、アソシエーション」ノ東洋移民排斥決議ヲ朗読シ恰モ帰還兵全部カ日本人ニ対シ惡感情ヲ有シ居ルカ如キ感ヲ与ヘタルモ最近在晚香坡領事カ該「アソシエーション」ノ会長及幹部ニ面談シタル時彼等ハ日本人ハ彼等ト共ニ戰場ニ働キタル戦友ナルヲ以テ日本人ニ対シ今日ハ何等ノ惡感情ヲ有セザルコトヲ確言セル趣ナリ貴大臣ハ「バーレル」氏又ハ「ビー、シー、」州議員ヨリ何等申出ヲ受ケタルヤト質問シタルニ移民大臣ハ自分ノ考モ大体貴見ニ同シ「ビー、シー、」州ニ於ケル惡感情ハ主トシテ支那人ニ対スルモノニシテ日本人

擡上リ居ラズ本日モ先ツ左シタル事ナク結了候事ト期待致居リ候

土地所有排斥ノ決議中ニハ日本人モ含マルヘキ理由有之近年地方ニ於ケル日本人農業ノ發展ハ中々目星シキモノ有之候去ル日曜日「ミッシン」ヘ邦人啓發講演ノ為メ出張取調ヘタル一例ニヨレハ大戰ニツキ子息等ハ戦地ニ向ヒタル為メ自然耕地ハ放任サレ今日之等ノモノ共帰還ニ當リ日本人ノ優勢ナルヲ見テ不快ノ念ニ驅ラルルモノモ多ク又前所有地ハ戦時中日本人ノ手ニ移リ居ルモノモ有之然ルニ日本農夫側ニ於テハ戦時人手少キ際例ノ定着農夫呼寄ニヨリ益益發展擴張候間西洋人側ヨリ不平ヲ謂ハルルモ亦一理有之義ト存候

昨日貴地議會ニ於ケル移民法案第二読会模様或ハ本省ヘ御電報相成候事カト存候得共本日「エムプレス」便メ切ニテ好便有之新聞切抜ノママ參考トシテ田中通商局長迄送附方取計置申候不取敢御挨拶マテ早々
写 田中通商局長

三二五

五月二日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ニ対スルモノニハ非ズト觀察シ居レリ四千人ノ支那人労働者ハ学生ト称シテ昨年入国セリ且現ニ支那ニ於テハ七千ノ再渡航ノ權利ヲ有スル支那人アリ是ニ就キテハ自分モ大ニ苦心シ居レリ過般四十余名ノ支那人ヲ送還シ又在当地支那總領事及汽船会社等ノ協力ヲ受ケテ支那人ノ渡來防止方苦心シ居レリ帰還兵總て職業ニ就キ一般ニ常態ニ復スルニ至ル迄ノ間ハ新移民ノ渡來ハ其ノ何レヨリナルヲ問ハズ望マシカラズ現ニ英本国ヨリノ移民ニモ出來ル限リノ制限ヲ加ヘ居ル有様ナリ日本人ニ関シテハ貴下ノ提示シタル統計ニ依リ過般モ「ビー、シー、」州議員ニ対シ日本人ハ過去五年間ニ數百名ノ減少ヲ來シ居レルコトヲ告ケタルニ自分ハ日本人ニ関シテハ「バーレル」氏ヨリモ「ビー、シー、」州議員ヨリモ未タ何等ノ要請ヲ受ケ居ラズ又自分モ日本政府ニ於テ殊ニ茲數ケ月中出來得ル限リノ自制ヲ加ヘラルルニ於テハ其上何等ノ手段ヲ執ルノ必要ヲ認メ居ラズト述ヘタリ尚ホ本官ハ万一「ルミュー、アグリーメント」ニ何等影響ヲ及ボスヘキ措置ノ執ラルル場合ニハ日本人ハ第一二十分ノ協議ヲ受クヘキコトヲ期待スヘシト述ヘタルニ移民大臣ハ若シ「ビー、シー、」州議員又ハ内閣ノ一人ノ意見ニ依リ

日本移民ニ関シ何等手段ヲ執ル必要アリト自分ニ於テモ認ムル場合ニハ必ス先ツ貴官ト十分ナル意見ノ交換ヲ為スヘシト約セラレタリ又過般夜會ノ為メ其後ニモ「ビー、シー、」州議員ト接近ノ機会ヲ造リ其ノ一人「クロー」ト移民ニ関シ談話シタルニ氏ハ移民大臣ヨリ日本人減少シ居ルコトヲ告ケラレタルコトヲ語レリ日本カ「ルミュー」協商ニ忠実ナルコトヲ承認シタルモ此際「ルミュー」協商ヲ改メテ労働者ノ新タニ渡航スルコトヲ一切差止ムルコトハ出来ザルヤト問ヒタルニ依リ本官ハ同人ニ就キ此ノ問題ヲ討議スルノ不利益ナルヲ思ヒタルヲ以テ日加貿易ノ激増商人及旅行者ノ増加ノ事實ヲ語リ労働者ノ新渡航ニ関シテハ別ニ要領ヲ与ヘサリシカ同人ハ大戦ニ於ケル日本ノ功績殊ニ初期ニ於テ加奈太ノ日本ニ負フ処大ナリシハ熟知スル処ナルモ何分「ビー、シー、」州ノ議員トシテハ自分等カ如斯基態度ヲ日本人ニ對シテ執ラザルベカラザルハ已ムヲ得ザル処ナリ諒承セラレ度シト述ヘタリ

三二六 五月八日 在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民法改正案ニ関スル移民大臣ノ議會ニ於ケ

丈ケ速ニ之ヲ廃棄セサル可ラサルコト之レナリト夫ヨリ案ノ大体ヲ説明シ進テ現時ニ於テハ好マシカラサル移民ヲ排斥スルト同時ニ労働状態ヲ考量セサル可ラス休戦以來口実ノ許ス限リ総テノ入国ノ場所ニ於テ熟練及不熟練労働者ノ入国ヲ阻止シツツアリ數箇月以前亞細亞ヨリ英領「コロムビヤ」ヘ労働者ノ入国ヲ禁止スル總督令發布セラレ目下実行中將來モ尚繼續実行ノ筈ナリ(此時ルミュー氏日本移民ハ如何ト質問シ移民大臣ハ其事ハ追テ説明ス可シト答ヘタリ)尤モ一時労働状態ノ事情ノ為メ右總督令ハ嚴格ニ実行セラレザリシハ事實ナルモ太平洋沿岸ニ於ケル労働状態ノ險惡ナルニ顧ミ愈々最近右總督令ヲ極端迄嚴格ニ実行スヘシトノ訓令ヲ発シタルヲ述ヘ夫ヨリ米國竝ニ歐洲ヨリ來ル好マシカラサル移民ノ阻止ニ関シテ述ヘタル後曰ク日加間ニ日本人ノ入国ヲ規整スルノ協約アルコトハ諸君ノ已ニ知ラルル処ナリ予ハ十分ニ注意シテ本問題ヲ研究シタル結果茲ニ日本政府ハ最モ誠実ニ該協約ヲ実行シ居ルコトヲ言明ス一九一四年以來在加日本人ノ數ハ実ニ四五百人ノ減少ヲ來タシ居レリ近來予ハ当地日本領事ト常ニ接觸シ居レルカ同領事ハ太平洋沿岸ニ於ケル労働状態ヲ今日以上

ル説明ニ付報告ノ件

第四七号

(五月九日接受)

過般來討議中ナリシ移民法改正案ハ大体ニ於テ第二議會ヲ通過セリ

讀書試験ニ関シ場合ニ依リ之ヲ免除スル權能ヲ移民大臣ニ与ヘタルト現行法第三八条ノ活用ノ範圍ヲ更ニ拡大スルノ修正成立シタルト二三字句ノ修正アリタル外最初提出セラレタル原案可決セラレタリ

四月廿九日移民大臣ハ本案説明ニ際シ述ヘテ曰ク予ハ議會及輿論カ急速ニ移民法改正ヲ見シコトヲ希望スルヲ知ルヲ以テ成ルヘク速カニ本案ヲ提出センコトヲ欲シタルモ平和會議ニ於テ移民ニ關係アル条項ノ議決セラルルノ虞アリト見タルヲ以テ本案ノ提出ノ時期ヲ延期シタリ現在ノ情況ニテハ平和會議ハ本問題ヲ全然各国ノ自由ニ委セタルモノノ如シ本案提出ニ當リ政府ノ根本義トシタル処ハ移民問題ハ国内問題ニシテ決シテ他國ノ干涉ヲ許ササルコト從テ吾人ノ同化シ能フ以上ニ門戸ヲ開放セシメラル可ラサルコト本問題ニ関シテハ吾人ノ承認セサル条約又ハ約束ニヨリテ束縛セラル可ラサルコト若シ斯ノ如キ約束アリトセハ出來ル

ニ險惡ナラシメザル為メ加奈陀政府ニ對シ協力ヲ惜シマズ現ニ同領事ハ再建時代中日本ヨリ渡來スル移民ヲ出來得ル丈ケ少數ナラシムル為メ其本国政府ト本問題ニ関シ交渉シタリト夫ヨリ新移民入国ニ関スル現行法ノ不完全ヲ述ヘテ結局日加間ニ於ケルカ如キ協約ヲ結フコト得策ナルヘキカトセリ後議事進行五月一日ニ至リ「ブリティッシュ、コロムビヤ」選出議員「クロップ」氏ハ移民大臣ハ支那人ニ関シ本法中ニ規定スル処アラントスルカ予ハ一定數ノ日本労働者ノ入国ニ関シ日本政府トノ間ニ取極アリ又支那人ニ對シテハ別ニ移民法ノ規定アリト承知ス予ハ日本人及支那人ニ関シテモ当然本法中ニ規定スヘキモノト信スト述ヘタルニ對シ移民大臣ハ本問題ニ對シ予ハ今直ニ適確ニ答弁スルヲ得ス予ハ新移民ノ入国税廢止ノコトヲ「サゼスト」シタルモ未タ十分ノ研究ヲ為シ居ラス日本ヨリノ移住ニ関シテハ予ハ特別ノ立法ヲ必要ナリト認メズ政府ハ過去數年間実行セラレ居ル協約ニ何等変更ヲ加フルノ意思ヲ有セズト答弁シタリ。

三二七 五月九日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ移民政策ノ精神及我方自制措置ノ効果

二 關スル件

第四八号

(五月十日接受)

往電第四七号ニ関シ

今回ノ移民法討議ヲ一貫シテ強ク表現セラレタル精神ハ移民ノ選択及制限ニアリ今ヤ加奈陀政府ハ新タニ到着スル支那人ニ対シテハ遠慮無ク労働者入国禁止總督令ヲ適用シテ之ヲ送還シ(最近五月一日加奈太丸ニテ更ニ三十六名ノ送還ヲ見タリ)又移民法討議中議論沸騰ノ結果五月一日急遽現行法第三十八条ニ依ル總督令ヲ發シ Hutterites Menonites Doukhobors ト称スル種族(脱)米國ヨリ敵国人ノ移住モ亦同様ノ總督令ヲ以テ已ニ之ヲ禁止シ居レリ右ノ如キ形勢ナルニ拘ラス本邦人ニ関シテハ何等手段ヲ執ラサル帝國政府カ年来「ルミュー」協商ノ実行ニ忠実ナリシニ依ルハ勿論ナルモ特ニ過般当分ノ内旅券下附ニ関シ一層緊縮ノ方針ヲ執ラレタルコトヲ移民大臣ニ通告セル結果同大臣ガ深ク我カ誠意ニ感服シ益々我ニ対シ好意ヲ有スルニ至リタル結果モ亦多キニ居ルト推察セラル移民大臣カ日本人ノ減少セルコトヲ述ヘタルハ本官ノ覚書ニ依リタルモノト

思ハル本官ハ第二説会中同大臣ニ会见シ読書試験カ歐洲語ニ換ヘラルルカ如キコトナキ様特ニ注意シ五月四日更ニ会见シタルカ最早大体終了シタルニ付此上日本人ニ関シテハ何等議論無カルヘシト述ヘタリ尚前記 Hutterites Menonites Doukhobors 等ハ何レモ白人種ナルモ其ノ排斥セララル理由ハ特殊ノ習慣ヲ有シ同種族ノミ群居シ特殊ノ学校ヲ維持シ自ラ英語ニ習熟セサルノミナラス子弟ニ之ヲ習得セシメス一般加奈太人ト同化セス且ツ其ノ宗教ヨリ兵役ノ義務ニ服セスト云フニ在リ又移民法中特ニ試験除外ノ權能ヲ大臣ニ与ヘタルハ主トシテ「ニューファウンドランド」及米國ヨリ收穫時等ニ於ケル一時的の出稼人ニ便宜ヲ与ヘンカ為メ極メテ例外的規定ノ場合ニ備ヘンカ為メナリ

三二八 五月十日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

B、C、州ニ於ケル日本人土地所有問題ニ關スル件

第四九号

「ビー、シー、」州ニ於ケル日本人農業ノ發展ノ結果日本人ノ土地所有ヲ禁止セムトスル議アル事ハ予テ御承知ノ通り

ナルカ目下右ノ議カ真面目ニ研究セラレツツアルコトハ往電第三二号「バーレル」氏ノ談話ニ徴シ想像シ得ラルル処ナリ在晚香坡領事ヨリ本官宛四月三十日附親展書(寫通商局長ヘ送附シアリ)末段ニ掲レハ日本人ノ發展ハ帰還兵ニ対シ不快ノ念ヲ与フルノ原因トナリ居ル趣ノ処加奈陀政府ハ民論ニ動かサル事最容易ニシテ常ニ戦々兢兢トシテ之ニ違ハン事ヲ怖ルルモノノ如ク殊ニ帰還兵ノ不平ハ殆ト万能力ヲ有スルモノノ如ク往電第四八号 Hutterie Menonies 等ノ入国禁止モ全ク帰還兵ノ不平煽動ニ起因ス殊ニ日本人ノ最發展シツツアル「オカナガン」地方ハ國務大臣「バーレル」氏ノ選挙区ナルヲ以テ茲ニ喧囂ナル輿論起ルニ至ラハ加奈陀政府ハ相当之ヲ重大視スルニ至ルヘキカト思ハルルモ一方条約ノ規定ヲ觀ルニ土地所有ハ之ヲ相互ノ条件ニ係ラシメアルト「ビー、シー、」州ニ於ケル東洋人土地所有權問題ノ起ル以前我ニ於テ英國臣民ニ土地所有ヲ許可シ居ルニ非ザレハ我ハ条約上ノ權利ヲ主張スルヲ得ザルヘク交渉上困難ヲ見ル事ナキヤヲ憂フ往電第三二号「バーレル」氏カ我法制ヲ質問シタルモ「ビー、シー、」州側ニ於テハ或ハ既ニ其辺迄研究シ居ルニ非サヤトモ疑ハル御考量ヲ仰ク

三二九 五月十七日
在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民法改正案下院通過ノ件

第五〇号

(五月十八日接受)

移民法改正案五月十二日下院ヲ通過セリ上院ニテハ下院案ニ何等変更ヲ加フルコトナカルヘシトノ当局者ノ見込ナリ

三三〇 六月六日

在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民法改正案ニ基ク読書試験實施ニ付移民總

監ト会谈ノ件

第五五号

(六月七日接受)

目下下院ニテ討議中ナル移民法改正案ニ依レハ読書試験ハ来ル七月一日ヨリ實施ノコトナリ居レリ仍テ六月四日移民總監ヲ往訪果シテ七月一日ヨリ實施ノ積リナリヤト問ヒタルニ然リト答ヘタルニ付然ラハ試験ノ程度ヲ承知シタキニ付試験用紙ヲ一覽シタシト申出タルニ總監ハ試験用紙ハ未タ準備シ居ラス何レ晚香坡ニテ準備スルコトナルヘシトノコトナルニ付本官ハ携帯セル東京朝日新聞ヲ示シ漢字ニハ仮名ヲ附セサレハ普通ノ日本ノ読物トハ称シ難キコト

ヲ説明シ総監ノ需ニ応シ右東京朝日新聞ヲ其儘渡シ置キタリ尚本官ハ試験程度ハ米國ニテ実施セルモノト略ホ同様ト思考シ誤リナカルヘキヤト問ヒタルニ総監ハ米國ニ於ケルヨリモ更ニ簡單ナラシムル考ニテ試験語数ハ五六語ニテ可ナリト思ヒ居ル旨ヲ述ヘタリ尚本官ハ右試験用紙ノ準備ニ付テ何等助力シ得ルコトアラハ喜ンテ助力ヲ提供スル旨ヲ述ヘタルニ然ラハ英語原文ノ準備出来タラハ其日本語翻譯ニ付テハ或ハ貴官ノ助力ヲ求ムルコトアルヘシト答ヘタリ就テハ愈先方ヨリ助力ヲ求メラルコトナラハ口語体文章トシ片仮名及平仮名ノ傍訓ヲ附シタル二種ノモノヲ作リ之ヲ与フルコトト致シタシト思フモ何等御意見アラハ至急電報アリタシ尚七月一日ヨリ試験実施ノコトトナルニ付テハ六月中旬本邦出發者ノ乗船前二間ニ合フ様試験ノ程度ヲ日本ニ報告シ置キ度希望ヲ述ヘタルモ総監ハ右二間ニ合ハシムルコトハ或ハ困難ナルヘシト答ヘ尚其個人ノ意見トシテ教育ノ普及セル日本人ニ対シテハ讀書試験ハ左程ノ問題ニアラサルヘシト思フ旨ヲ述ヘタリ

晚香坡領事済

第二三三號

(六月七日接受)

各移民官談話ノ件
讀書試験ノ實際ノ取扱振ニ関シカナダ及米國

三三三

六月七日
ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第五七號
往電第五六號ニ関シ下院ハ上院ノ修正ニ同意シタリ就テハ改正移民法ハ近々総督ノ裁可ヲ得次第実施セラルヘシ
晚香坡済

三三二

六月六日
在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民法改正案下院ハ上院ノ修正ニ同意ノ件

第五六號

(六月七日接受)

移民法改正案修正ノ上上院通過ノ件

三三一

六月六日
在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

六月四日上院ハ輕微ナル修正ヲ加ヘタル上移民法改正案ヲ通過セリ

晚香坡領事済

在オタワ總領事ニ左ノ通電セリ

第三〇號

大臣宛貴電第五五號ニ関シ當地加奈陀移民官ヘハ未タ何等ノ沙汰ナキモ試験ハ簡單ニシタシト云ヘリ又米國移民官ニ就キ現行試験程度ヲ尋ネタルニ普通聖書中ノ文句ヲ使用スト答ヘ尚日本移民ニ対スル實際ノ取扱振トシテハ予テ小ナル紙片ノ左右ニ英和兩文ニテ認メアリ内邦丈ハ片仮名平仮名又ハ漢字交リノ三種アリ本人ノ希望ニ依リ何レヲ択フモ好シ文句ノ一例ヲ挙クレハ「此ノ札ヲ机ノ上ニ置キ右ノ手ヲ云々シ然ル後敬礼スヘシ」ト云フカ如キ意味ノモノヲ印刷ニ附シアリテ之ヲ移民ニ示シ同人ニ於テ其ノ通り動作スレハ日本語ニ通シタル証拠ニテ試験ニ合格シタルモノトス日本文中漢字交リノモノハ片仮名又ハ平仮名ニテ傍訓シアリ英文ノ分ハ移民官ノ參考ニ過ギザルヘク即チ我移民ハ日本文ノ方ヲ讀ミ文句ヲ了解セル証左トシテ其ノ動作ヲ為セハ可ナル次第ナリ御參考迄ニ申進ス
外務大臣ニ転電セリ

三三四

六月十日
在オタワ古谷總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三三四 三三五

第六一號

(六月十日接受)

移民法改正案議會修正ノ上總督裁可ノ件

移民法改正案ニ関シ前電後加奈陀議會ハ過激主義者ノ追放ノ為ニ既定ノ成案ニ更ニ修正ヲ加ヘタル上同案ハ六月六日總督ノ裁可ヲ經タリ同日ヨリ実施セラル

三三五

六月十一日
幣原外務次官ヨリ
古賀拓殖局長宛

加奈陀移民法改正及本邦人ニ關係アル主要事

項ニ付通報ノ件

通送第七〇號

予テ英領加奈陀ノ議會ニ於テ審議中ナリシ加奈陀移民法改正案ハ愈本月四日兩院ヲ通過シ六日總督ノ裁可ヲ經同日ヨリ実施セラルコトナリタル趣ニテ右改正案中本邦人ニ關係アル主要ノ点左記要領ノ通在オタワ古谷總領事ヨリ報告ニ接シ候条右朝鮮總督、台灣總督、関東長官及樺太庁長官ヘ通知方可然御取計相成度此段申進候也

記

一、從來ハ加奈陀ニ三年以上居住スルトキハ加奈陀ニ住所ヲ有スル者ト看做サルル規定ナリシカ改正ノ結果五年以

上居住セサレハ住所ヲ有スル者ト看做サレサルニ至レリ
加奈陀ニ住所ヲ有スル者ハ移民法上殆ント加奈陀市民ト
同一ノ待遇ヲ受ケ入国ニ付移民法上ノ制限ヲ加ヘラルル
コト少ナシ

二、改正法ニ依レハ加奈陀ニ住所ヲ有スル者ト雖加奈陀ヲ
去リテ一ケ年以上外国ニ滞在スルトキハ加奈陀ニ於ケル
住所ヲ放棄シタルモノト推定セラル

帰化加奈陀人ハ此場合加奈陀市民権ヲ失フ尤モ帰化人ニ
付テハ其ノ帰化証書ノ裏書ニ英国外交官又ハ領事官ヨリ
加奈陀ノ住所ヲ拋棄スル者ニ非サル旨ノ証明書ヲ受クル
ニ於テハ市民権及加奈陀ノ住所ヲ失ハス右証明ハ毎年之
ヲ受クルコトヲ要ス而シテ五年以上外国ニ居住スルトキ
ハ如何ナル場合ニ於テモ市民権ヲ失ヒ加奈陀ニ於ケル住
所ヲ拋棄シタルモノト看做サル

加奈陀ニ於ケル住所ヲ拋棄シタル者ハ移民法ノ関スル限
リ入国ニ際シ初渡航者ト同一ノ取扱ヲ受ク

三、改正ノ結果結核病患者又ハ精神上肉体上ノ欠陥ニ依リ
自活シ得スト認メラルル者ハ入国ヲ禁止セラル

四、改正ノ結果入国ノ際読書試験ヲ課セラルルコトナレ

リ試験ハ日本語其他何国語ニテモ受験者ノ選択スル国語
ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ単ニ加奈陀ヲ通過スル者
及加奈陀ニ住所ヲ有スル者ハ右試験ヲ免セラル試験ノ方
法ハ予メ小ナル紙片ニ三十字乃至四十字位ノ字数ヲ印刷
シ置キ之ヲ入国者ニ交付シテ入国者カ其意味ヲ了解スル
ヤ否ヤヲ見ルモノノ如ク右印刷ノ日本文中ニ漢字ヲ用キ
タル場合ハ平仮名又ハ片仮名又ハ片仮名ヲ以テ之ニ傍訓
ヲ施スヘシト云フ

五、改正ノ結果加奈陀総督ハ総督令ニ依リ加奈陀ノ氣候、
産業、社会、教育、労働其他ノ状態ニ適合セスト認ムル
国民、人種、宗教、階級又ハ職業ニ属スル移民ノ入国ヲ
一定ノ期間又ハ永久ニ禁止又ハ制限シ得ルコトナレリ
右ハ現ニ敵国人ノ移住ニ反対スル輿論アリ又最近米国方
面ヨリ「ハッターライト」ト称スル兵役義務ヲ認メサル
移住者続々移住シ来レルニ付之等ヲ排斥スル為設ケラレ
タルモノナリト云フ

六、改正ノ結果加奈陀ニ入港スル船医ハ船客ヲ一人一人診
察シテ其結果ヲ報告スルノ義務ヲ有スルコトナレリ

三三六 六月十七日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民ノ読書試験用カードニ関スル件

第六六号 (六月十八日接受)

六月十七日移民総監往訪読書試験用「カード」ニ関シ問合
セタルニ右ハ未タ準備ニモ着手シ居ラサル由ニテ若シ七月
迄ニ間ニ合ハサルトキハ已ムヲ得ス当分ノ間米国ニテ使用
ノ物ヲ一時借用スルコトトナル可シト答ヘタリ依テ本官ハ
重ネテ右「カード」調製ノタメ助力ヲ惜シマサル旨ヲ述ヘ
置キタリ

三三七 七月六日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民ノ読書試験用カードニ関スル件

第七一号 (七月六日接受)

往電第六六号ニ関シ
七月二日移民次官補ハ読書試験「カード」未タ出来サルヲ
以テ当分米国ヨリ借用ノモノヲ使用スルコトニ決定セリト
内話セリ

三三八 七月六日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三三六 三三七 三三八 三三九

加奈陀移民法改正二件ヲ總督令公布及右八日
本人ニ適用ナキ旨移民次官補ヨリ申越ノ件

第七二号 (七月六日接受)

加奈陀政府ハ六月九日付ヲ以テ大正七年機密第五号拙信ヲ
以テ報告セルモノト殆ント内容ヲ同フスル總督令ヲ發布セ
リ右ハ移民法第三八条改正ニ伴フ必然ノ措置ニシテ實際ニ
於テ何等ノ変化ナキモ其日本人ニ適用ナキコトニ関シ更メ
テ書面ヲ取付ケ置クコトヲ必要ト認メ予テ之ヲ請求シ置キ
タル処移民次官補(新移民法ニ依リ移民総監ハ廃止セラレ
元移民総監タリシ「スコット」氏ハ移民次官補ニ任セラル)
ニリ In connection with thirtieth order as in former
orders it is not held that it applies in any way to Jap-
anese subjects ト書面ニテ申越セリ

註 大正七年機密第五号ハ日本外交文書
大正七年第一冊一二九文書

三三九 七月七日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
加奈陀議會閉会ノ件

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥関係一件 三四〇
第七三号 (七月九日接受)

加奈陀議會ハ七月七日閉会セリ

三四〇 八月五日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛

労働者入国禁止ニ関スル總督令ニ関スル件

附屬書 一九一九年七月三日附スコット移民次官補ヨリ

古屋総領事宛

入国禁止ニ関スル總督令日本人ニ不適用ノ旨表
明ノ件

機密往第八号

(九月十二日接受)

大正八年八月五日

在オタワ

総領事 古谷 重綱(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

加奈陀政府ガ本年六月九日附ヲ以テ發布セル労働者ノ入国
禁止ニ関スル總督令ガ日本人ニ対シ適用ナキコトニ関シ移
民次官補 Scott 氏(元移民総監)ヨリ更メテ書面ヲ取置キ
タル次第ハ曩ニ本年七月五日付第七二号拙電ヲ以テ御報告
致置候処右 Scott 氏ヨリノ書面全文玆ニ及御送付候条御査
閲相成度此段申進候

Assistant Deputy Minister.

The Japanese Consul-General,

Ottawa, Ont.

註 總督令写省略

三四一 九月三十日

在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ政府ハ領補欠選挙法ヲ領選挙法ト一致

セシムル為ノ改正案ヲ提出シタル件

第九一号

(十月一日接受)

「ブリティッシュ、コロンビア」ノ法律ニヨリ東洋人ハ同
州ニ於テ選挙権ヲ有セス而シテ領選挙ニ於テハ州選挙権有
権者ノ名簿ニ依ルコトナリ居ルニ付従テ領選挙ニ於テモ
選挙権ヲ有セサルコトナリ居ル処本年春期議會ヲ通過セ
ル領補欠選挙法ニ於テハ英国臣民ハ総テ選挙権ヲ有スルノ
規定トナリ居リシ為メ東洋人モ英国々籍ヲ有スルモノハ
「ブリティッシュ、コロンビア」ニ於テ仮令領総選挙ニ於
テハ選挙権ヲ有セサルモ領補欠選挙ノ場合ニ於テノミハ選
挙権ヲ有スルノ結果トナレリ右ハ全ク Overright ニ依リシ
モノナリトテ政府ハ九月二十二日補欠選挙法改正案ヲ提出

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥関係一件 三四一

三四〇

敬具

(附屬書)

一九一九年七月三日附スコット移民次官補ヨリ古屋総領事宛
六月九日發布ノ労働者ノ入国禁止ニ関スル總督令ハ日本人ニ不
適用ノ旨表明ノ件

July 3rd, 1919.

Dear Sir,

In compliance with your request I enclose herewith
three copies of an Order-in-Council known as P. C. 1202,
dated the 9th of June, 1919.

You will observe that this order is but a continu-
ation of the former regulation, P. C. 1183, dated the
18th of May, 1918.

In connection with this Order, as in former Orders,
it is not held that it applies in any way to Japanese
subjects.

Yours very truly,

W. D. Scott.

シ州ニ於テ選挙権ヲ有セサルモノハ当該州ニ於ケル領補欠
選挙ニ於テモ亦選挙権ヲ有セサルコトヲ規定セントシ右改
正案ハ九月二十六日下院第二議會ヲ通過セリ右討論中自由
黨議員 Lapointe ハ本案ノ結果日本人ノ加奈陀ニ帰化セル
モノハ他州ニ於テハ選挙権ヲ有スルモ「ブリティッシュ、
コロンビア」ニ於テハ之ヲ有セサルコトナル右ノ如キ変
則ヲ設クルノ必要何処ニアルヤト質問シ Solicitor General
ハ右ノ状態ハ確ニ anomaly ナリ併シ東洋人ノ選挙権問題
ハ「ブリティッシュ、コロンビア」ニ於テハ最モ八釜敷問
題ナリト答ヘ自由黨議員 McMaster ハ加奈陀人ト同化セ
サル外国人ノ入国ヲ許スヘキヤ否ヤハ別問題ナリ但シ一旦
入国セルモノニハ平等ニ選挙権ヲ与ヘサルヘカラス本案ノ
如キ変則ノ立法ヲ求ムルモノハ其必要ニ付最モ明白ナル理
由ヲ示ササルヘカラスト論シ「ブリティッシュ、コロンビ
ア」議員 Stevens ハ本問題討論ニ際シ必スシモ東洋人問題
全般ヲ問題トスルノ要ナカルヘシ只「ブリティッシュ、コ
ロンビア」モ他州同様其州選挙ニ於ケル有権者ノミヲ領選
挙ニ於ケル有権者タラシメント欲スルノミ仮リニ「ブリテ
ィッシュ、コロンビア」ニ於テ嘗テ起リタルカ如ク七千人ノ

三四一

東洋労働者一、二ヶ月間ニ Montreal ニ上陸セハ Province of Quebec (Lapointe McMaster ハ孰レモ Quebec 州選出議員ナリ)ニ於テモ同様ノ問題起ル東洋人カ西洋諸国ニ同化セル例ハ未タ曾テ見サル所ナリト述ヘ Lemieux 協商締結者タル Lemieux ハ東洋人ハ大体ニ於テ honourable ニシテ且ツ教育アル人種ナリ殊ニ日本ノ実見者トシテ予ハ言ハントス日本人ハ最モ進歩シ高等ノ教養ヲ有シ且世界ニ於テ最モ勤精家ナル人種ナリ聡明ナル日本人ニ対シ「ブリテイツシュ、コロンビア」ニ於ケル其選挙権ヲ褫奪スヘカラス印度人ニ対シテモ亦然リト論シタリ

三四二 九月三十日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カナダ補欠選挙法改正案下院第三読会通過ノ

模様報告ノ件

第九二号

(十月一日接受)

往電第九一号ニ関シ

本改正案ハ多分近々下院第三読会ヲ通過スヘシ本案ハ日本人種ニシテ英国臣民タルモノニハ重大ナル關係ヲ有ス從テ間接ニハ我利益ニ影響スル処アルハ勿論ナルモ直接日本臣

大正八年十二月四日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

東洋人排斥問題ニ関スル件

本件ニ関スル在オタワ総領事宛阿往第九八号公信写御参考迄及御送付候 敬具

(別紙)

阿往公第九八号

大正八年十二月四日

在晚香坡領事 浮田郷次

在オタワ総領事 古谷 重綱殿

近來「ニュー、ウエストミンスター」市ニ於テハ屢々東洋人排斥論唱道セラレ曩ニ同地大戦古兵協會ハ東洋人学童隔離方ニ関シ市当局者等ニ提議セル処アリシガ同会ハ昨タノ集会ニ於テ東洋人ノ衛生規則遵守方並ニ市内各工場ニ於テハ東洋人ノ使用ヲ禁止セシムヘキ事等ヲ決議シ市會議員選挙ニ当リ之等ノ問題ヲ提ケテ運動ヲ試ミントスルモノノ如ク又同地方在住白人漁業者組合ハ去ル二十九日選挙権アル英国臣民ノミニ限り漁業鑑札ヲ下附スヘキ様領政府ニ対シ

一〇 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三四四

民ノ權利ニ關係アリト云フベカラス且ツ十数年来既ニ確定実行セル主義ヲ総選挙ノ場合ニ於ケルト同様補欠選挙ノ場合ニモ適用セントスルモノナルヲ以テ根本問題ノ解決セラレザル以上已ムヲ得ザルモノト思考セラルルノミナラズ本案ハ多数ヲ有スル政府ノ提出案ナルヲ以テ此際本法ヲ喰ヒ止ムルハ到底不可能ト観測セラルルヲ以テ旁々本官ハ全然傍觀ノ態度ヲ持シ居レリ新聞電報ニ依レハ「ビクトリア」ニ於ケル支那人種タル帰化竝生来ノ英国臣民ハ既ニ首相ニ対シ抗議ノ電報ヲ発シ且ツ最後迄本件ニ関シ抗争スル筈トノコトナリ尚別電第九一号中ノ Stevens ハ予テ排日派ノ首領ト目サレタル人又 Lapointe ノ如キ Lemieux ノ如キ仏人系ノモノハ斯ノ如キ問題ニ付キテハ大体東洋人ニ同情ヲ表スル傾アルモ其勢力ハ関税問題ノ如ク英人系ト共通ノ問題ヲ除キテハ到底大勢ヲ左右スルノ力ナキモノト認ム

三四三 十二月四日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

東洋人排斥問題ニ関シ在オタワ総領事へ報告

ノ件

公第三三五号 (大正九年一月七日接受)

運動スヘキ旨可決致シ候当州駐在領漁業監カンニンガム中

佐ハ一昨タオタワ向ケ出發ノ由聞込候ニ付本官ハ内意ヲ日

本人会ニ含メ同会信夫幹事ハ直チニ同氏ニ面会シテ事情ヲ

具陳シタルニ同氏モ之レヲ諒シ尚ホ氏ノ注意モアリ漁業大

臣宛陳情書ヲ送致候間右御含置相成度此段申進候 敬具

写送付先 外務大臣

三四四 十二月五日 在オタワ古谷総領事ヨリ
内田外務大臣宛

加奈陀帰化日本人ノ選挙権ニ関スル件

機密第一三号 (大正九年一月十日接受)

大正八年十二月五日

在オタワ総領事 古谷 重綱(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シテハ往電第九六号ヲ以テ申進置候次第有之候処去ル十二月四日海軍大臣主催ジュリコ提督歓迎ノ宴会ニ於テ内務大臣 Meichen 氏ト隣席トナリタルヲ以テ其レトナク談話ヲ在加日本人ノ事ニ及ホシタルニ同大臣ハ日本人義勇兵ノ事ヲ熟知シ居リ痛ク之ヲ賞讃シ彼等ハ全部自ラ進ンテ兵役ニ就キタルモノニシテ其数モ頗ル多ク且ツ奮戦激闘

ノ結果最多數ノ死傷者ヲ出セリ実ニ感服ノ外ナシト述ヘタルニ付本官ハ更ニ之ヲ今回ノ戦勝公債応募ノ結果ニ徴スルニ在ヴァンクラーヴァー日本人ノ応募予定額ハ五万弗ナリシニ事実十八万弗ノ応募ヲ見タリ在加日本人ハ加奈陀ニ対スル忠誠ノ実ヲ尽スニ於テ敢テ人後ニ落ちサルカ如キニ拘ラス其帰化セルモノアリテモB、C、州ニ於テハ州選挙権ヲ有セサルノミナラス過般ノ補欠選挙法改正ニ依リ領選挙権ヲモ有セサルニ至リシハ余ノ個人トシテ最同情ニ堪ヘサル処ナリ尤帰化人ハ既ニ日本臣民ニ非ザルカ故ニ余ノ此言ヲ為スハ日本総領事ノ資格ニ於テスルニハ非ザルナリト述ヘタルニ内務大臣ハ余ハ個人トシテハ貴見ト同感ナリ加奈陀人全般トシテハ日本及日本人ニ深甚ナル友情ヲ有スルモ如何センB、C、州ニ於ケル日本人ハ余リニ優秀ニシテ漁業ハ既ニ彼等ノ手裡ニアリ果実栽培業ノ如キニ於テモ日本人ハ既ニ偉大ナル進歩ヲ遂ケツツアリ而シテ此偉大ナル人種ハ英國人ト渾然融和スル能ハサルカ故ニ余ト雖B、C、州ニ住居スルニ於テハ或ハB、C、州人ト同一ノ感情ヲ有スルニ至ルナキヤヲ保セス要スルニ日本人カB、C、州ニ於テ排斥セラルルハ其優秀ナル資質ニ依ルモノナリ而シテ

候

右御参考迄ニ及報告候 敬具

在晚香坡領事

三四五 十二月十九日

在ヴァンクラーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

移民読書試験ノ実情ニ関スル件

第五三号

(十二月三十日接受)

貴電第二四号ニ関シ

「ビクトリア」ニ於テハ新渡航者ニ対シ極メテ簡易ナル試験ヲナシ当地(直航者極メテ少ナシ)ニ於テハ単ニ読ミ書キ出来ルヤ否ヤヲ尋ネ出来ル旨返答スレハ夫レニテ通過セルモノト看做シ居レリ再渡航者ニ対シテハ全然試験ナシ貴電ト共ニ在オタワ総領事ヘ転電セリ

三四六 十二月十九日

在ヴァンクラーヴァー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛

写真結婚ニ依ル妻呼寄証明書発給手続ニ関シ

請訓之件

公第三五〇号

(大正九年一月十日接受)

大正八年十二月十九日

一〇「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 三四五 三四六

B、C、州人ノ希望ヲ容レサルニ於テハ現政府ハ全然同州ノSupportヲ失フニ至ル可キヲ以テ過般ノ補欠選挙法改正ノ如キモ亦実ニ事情已ムヲ得サルニ出テタルコトハ貴下ニ於テモ之ヲ諒トセラレンコトヲ希望ス云々ト語り申候其後華盛頓労働會議ニ出席セル田村新吉氏当地立寄ヲ機トシ俱樂部ニ於テ少数者会食ノ際同氏ヲシテ夫レトナク本件ニ談及セシメタルニ反对党(即チ自由党)首領キング氏ハ領補欠選挙法改正案討議ノ際ハ自分ハ未タ議席ヲ有セザリシカ其當時詳細ルミュー氏ヨリ聴取セリ余ハ個人トシテハ現状ニ不満足ナルモノナリ但州権尊重ハ自由党年来ノ主義ニシテ從テ選挙権ニ於テモ亦此主義ヲ一貫セントスルモノニシテ為メニ現政府カ領ノ選挙権ヲ別ニ制定セントセシニ反对シタルコトアリ此一般主義ヲ維持セントスル結果B、C、州ニ於ケル不公平ナル選挙法ヲ認ムルノ結果トナルハ頗ル遺憾トスル所ナリト語り申候

右ハ各談話ノ梗概ニ過キサルモ要スルニ州選挙権ハ所詮根本ノ問題ニシテ州選挙権問題ニ於テ帰化日本人ニ有利ナル解決ヲ見サル前ニ領選挙権問題ニ於テ先ツ之ニ有利ナル解決ヲ見ントスルコトハ頗ル困難ナルコトノ如ク見受ケラレ

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

従前加奈陀ニ在住スル夫ノ呼寄ニ依ル写真結婚婦人ノビクトリア着ニ際シ同地移民官憲ニ於テハ更ニ結婚式ヲ舉行セシメ候処右ハ既ニ合法ニ結婚シタルモノナルニ付再ビ挙式ノ要ナシト前任阿部領事ヨリ同地移民官ニ交渉シ爾來挙式ノ儀ハ廃止セラレ単ニ夫妻ヲシテ一種ノ宣誓ヲナサシムル位ノ程度ニ止メ居ル現状ニ有之候処元來写真結婚婦人ノ来加ニ対シテハ加奈陀側ニ於テモ相当注意ヲ払ヒ居ル模様ニシテ本春中移民官通訳ノ如キモ本件ニ付テハ移民官ハ領政府ヨリ何等カ内訓ニ接シ居ル模様ナル旨内報セル事モ有之其後写真結婚婦人ノ渡来ニ際シ移民官ノ取り来レル態度ニ徴スルモ幾分加奈陀側意嚮ノ存スル所ヲ窺知シ得ル次第ニ有之候而シテ当館ニ於テハ本年三月三十一日貴電第八号呼寄証明制限ニ関スル御訓電ノ趣旨ニ基キ妻子呼寄ニ対シテモ一層取扱ヲ厳ニシテ一面ニ於テ帰国ノ上妻子同伴若クハ迎妻ノ上妻同伴再渡航出願者ニ対シ比較的便宜ノ取計ヲナスト共ニ他面在留ノママ妻子呼寄ヲ出願スル者ニ対シテハ証明発給ノ順序トシテ普通ノ妻呼寄ヲ先ニシ写真結婚ニ

依ル妻呼寄乃至子供呼寄ヲ後廻シトスルノ方針ヲ採り来リ候結果多クノ場合普通妻呼寄出願数多数ナルタメ写真結婚ニ依ル妻呼寄乃至子供呼寄出願ニ対シテハ殆ド証明発給ノ余裕ナク辛ウジテ制限数ヲ維持シ居ル実情ニ候処普通妻呼寄出願数ノ証明発給制限数ニ充タザル場合其余裕ヲ写真結婚ニ依ル妻呼寄ト子供呼寄トノ何レニ振り充ツ可キヤニ関シ小官ノ見ル所ニ依レバ仮令写真結婚タルニセヨ合法ノ結婚タルニ相違ナク其夫タルモノノ妻ヲ呼寄せントスル事情ハ普通子供呼寄ノ場合ニ於ケルヨリ一層切ナルモノアリ自然ノ順序トシテ前者ニ便宜ヲ与フル方至当ト考ヘ去ル九月二十五日附公第二五二号附属呼寄証明取扱標準第三章第五節ノ通り内定致シタル儀ニ有之候然ルニ貴電第二六号御来示ニ依レバ北米合衆国行キ写真結婚婦人ニ対シテハ明年二月限り旅券発給相成ラザル事ニ御決定ノ趣ニテ右ハ加奈陀行キ写真結婚婦人ノ渡航取扱ニ直接關係ナキ儀ニ候得共写真結婚婦人ノ来加ニ対スル加奈陀側ノ意嚮前述ノ通りナル

折柄近ク米国行キ此種渡航者差止メノ曉加奈陀側ニ於テノミ依然写真結婚婦人ノ渡来ニ制限ヲ加ヘザルニ於テハ或ハ加奈陀側ニ於テモ問題ヲ惹起スルコト無キヲ保セズ候ニ付当方ニ於テハ爾今写真結婚婦人ノ渡航ニ対シテ一層手心ヲ敵ニシ之ヲ「ディスカレッジ」スル方針ニ出ヅル方適當ナラズヤト思考致サレ旁々当館呼寄証明発給数制限ノ実情ニ鑑ミ自今普通妻呼寄証明以外ニ尚証明書発給ノ余裕アル場合ニハ之ヲ子供（成ル可ク幼年子女ヲ先ニス）呼寄証明ニ振向クルコトトシ写真結婚ニ依ル妻呼寄証明ハ出願者ノ事情万止ムヲ得ザルモノノ外之ヲ発給セザル方針ヲ採リ米国側ニ対スル取扱振リ及加奈陀側ノ意嚮ニ順応セシムルコトニ致シ度キ処大体右ノ方針ニテ処理シ可然哉何分ノ義御垂示相仰度此段及請訓候 敬具

本信写送付先 在オタワ総領事

事項一一「ペルー」移民關係雜纂

三四七 一月六日 在智利国田付公使ヨリ
内田外務大臣宛

秘露国ニ於ケル亜細亜人排斥法案ニ関スル件

附属書 大正七年十月二十二日附田付公使発秘露外相宛
書束訳文

政公信第五号 (三月十日接受)

大正八年一月六日

在智利

特命全權公使 田付 七 太(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

秘露国上院ニ於テ亜細亜人排斥法案提出セラレタル次第ハ在里馬齋藤領事発大正七年九月二十七日付公信第七四号ヲ

(註)

以テ疾ク御了承ノ事ト存候処同公信写ハ同時ニ同領事ヨリ本官ヘモ転送有之依テ本官ハ其当時同領事ニ右法案理由書電照ノ上其回答ヲ待チ同年十月二十二日付ヲ以テ不取敢内信書束ヲ認メ当時ノ秘国外務大臣ツーデラ氏ニ宛テ一応半公信のニ右理由書ニ対シ弁駁ヲ試ムルト同時ニ右法案ニ対スル同大臣ノ私見ヲ相尋ネ置候処其後同大臣ハ其職ヲ辞シ

出デテ米国ノ公使トシテ赴任スル事ト相成候其ガ為力遂ニ

本官書信ニ対スル回答ヲ得ル事不能今後モ右回答ニ接スル事ハ無之事カト被存候然ルニ幸ニモ前記法案ハ昨年ニ於テ秘国通常議會并ニ臨時議會ニモ提出セラルル事ナクシテ止ミタリトノ事ニ有之候尤モ此種ノ法案ハ不幸ニシテ今後共再三其ノ提出ヲ見ルナキヲ保シ難キニ付キ本官ニ於テモ相当注意ヲ怠ラズ候得共前記ツーデラ氏宛本官書信原文及其反訳共為念御参考迄及御送附候間委曲右ニテ御諒承相成候様致度此段報告申進候 敬具

註 日本外交文書大正七年第一冊一七七文書

(附属書)

大正七年十月二十二日附田付公使発秘露外務大臣ツーデラ氏宛書束訳文(註)

近頃接手セシ通信ニヨレバ秘露国議會ヘ亜細亜人排斥法案提出セラレ該法案ノ前文ニハ左ノ如キ理由有之ヤニ聞及候黄色人種トノ結婚ニ伴フ身体美ノ退化ヨリ秘露国民ヲ救護スルノ必要ナル事